

高知県埋蔵文化財センター年報 1

1991年度

1992

財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター



扇城跡航空写真



伏原大塚古墳航空写真

序

近年、急増する開発行為にともない遺跡の発掘件数も年々増加しており、貴重な埋蔵文化財を適切な方法で保護し後世に伝える体制を整えることが急務となっております。

このような情勢を受け平成3年4月高知県立埋蔵文化財センターが設置されると同時に財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターがその事業の運営にあっております。

高知県下における埋蔵文化財保護の中核的施設として、埋蔵文化財の発掘調査研究・資料の整理保存・埋蔵文化財愛護思想の普及啓蒙に関する事業を行い、財団の特色を生かしながら今後とも埋蔵文化財保護体制の充実を図ってゆく所存であります。

本書は、平成3年度中に行われた事業の概要について記し、事業についての理解を深めてゆくために刊行したものであります。御高覧いただければ幸いです。

おわりに、埋蔵文化財保護事業の推進にあたり、御協力をいただきました関係各位に厚くお礼申し上げますとともに今後とも一層の御指導御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成4年9月

財団法人高知県文化財団

埋蔵文化財センター

所長 小橋 一 民

目次

序

I	財団法人高知県文化財団	1
	1. 設立趣旨	
	2. 財団の概要	
	3. 文化財団組織図	
	4. 文化財団役員名簿	
II	埋蔵文化財センター	3
	1. 設立趣旨	
	2. 埋蔵文化財センター概要	
III	年間事業の報告	5
	1. 発掘調査	
	2. 発掘調査報告書刊行・資料管理	
	3. 普及啓蒙事業	
IV	本発掘調査概要	17
V	試掘調査概要	38

I 財団法人高知県文化財団

1. 設立趣旨

近年、所得水準の向上や自由時間の増大など社会経済情勢の変化を背景に、芸術文化活動に直接参加し、或は歴史的・文化的遺産に自ら親しむことを通じて、生活の中に潤いとやすらぎを求めるといふ、県民の文化的ニーズが、かつてなく高まってきている。

このような時代すう勢の中で、これからの文化行政は、より県民の期待に応えるものでなければならないが、特に、その推進に当たっては、単に行政のみが主導していくのではなく、行政と民間が、それぞれの叡智、力を出しあい、一致協力していくことがなによりも必要である。

高知県文化財団は、こういった使命と目的のもとに、県民文化の振興に資する芸術文化関連諸事業を、県、市町村、民間の力を幅広く結集して総合的、体系的に運営実施すると共に、県文化の拠点となる各種の芸術文化施設についてもその特性を生かし、公共性を確保しつつ、県民サービスの向上につながる、柔軟で弾力的な管理運営を行うなど、今後の本県の芸術文化活動の推進母体としての役割を担おうとするものである。

2. 財団の概要

(1) 名称

財団法人高知県文化財団

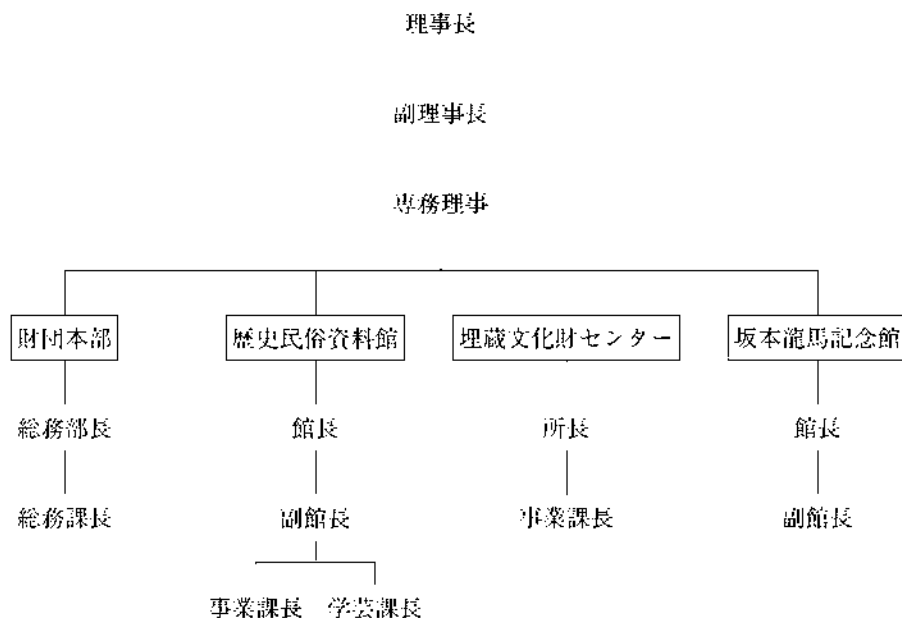
(2) 所在地

南国市洞豊町八幡 1099-1 高知県立歴史民俗資料館内

(3) 財団の事業内容

- 1) 音楽、演劇、美術、その他の芸術文化事業
- 2) 教育、学術及び文化の国際交流事業
- 3) 歴史民俗資料館、美術館等芸術文化施設の管理運営
- 4) 埋蔵文化財の調査研究、整理保存、展示等の事業
- 5) その他文化振興に関する事業

3. 文化財団組織図 (平成4年9月現在)



4. 文化財団役員名簿 (平成4年9月現在)

役職名	職名	氏名	摘要
理事長	前高知県知事	中内 力	
副理事長	高知県教育長	西森 久米太郎	
副理事長	四国銀行頭取	濱田 耕一	
専務理事		小橋 一民	
理事	高知市長(市長会長)	横山 龍男	
理事	吾北村長(町村会長)	筒井 直和	
理事	高知新聞社社長	橋井 昭六	
理事	高知商工会議所会頭	吉村 真一	
理事	高知銀行頭取	清水 泉	
理事	高知県総務部長	平谷 英明	
監事	高知市収入役	森田 毅	
監事	高知県教育次長	木下 武良	

Ⅱ 埋蔵文化財センター

1. 設立趣旨

埋蔵文化財は、昔から人間が大地に残してきた貴重な歴史的資料である。私達の祖先のくらしは、現在まで伝わる古文書等の記録からだけでは十分に理解することはできない。そのため私達の祖先が直接使った物や、大地に残り、長い時間を経て土に埋もれ現在に伝えられた埋蔵文化財は、それぞれの地域の歴史及び日本の歴史を解明していく上で欠くことのできないものとなっている。高知県でも古代人の残した遺跡が数多く残されている。貴重な文化遺産として保護されることが望ましいが、土地開発等によって止むを得ず遺跡の保存が困難な場合には事前の発掘調査を行い記録による保存を行っている。

近年、急増する遺跡発掘調査に対応するため、埋蔵文化財保護体制の充実が急務となっており、埋蔵文化財の発掘調査研究・資料の整理保存・埋蔵文化財愛護思想の普及啓蒙を目的として高知県立埋蔵文化財センターが設置された。事業の管理運営は財団法人高知県文化財団が行い、より柔軟で専門的な対応のできる機関となっている。



埋文センター開所式



作業風景

2. 埋蔵文化財センター概要

(1) 名称

財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター

(2) 所在地

南国市篠原南泉 1437-1

(3) 事業内容

1) 埋蔵文化財の発掘調査

遺跡の発掘調査を行い報告書を作成・刊行する。

2) 埋蔵文化財の保存管理

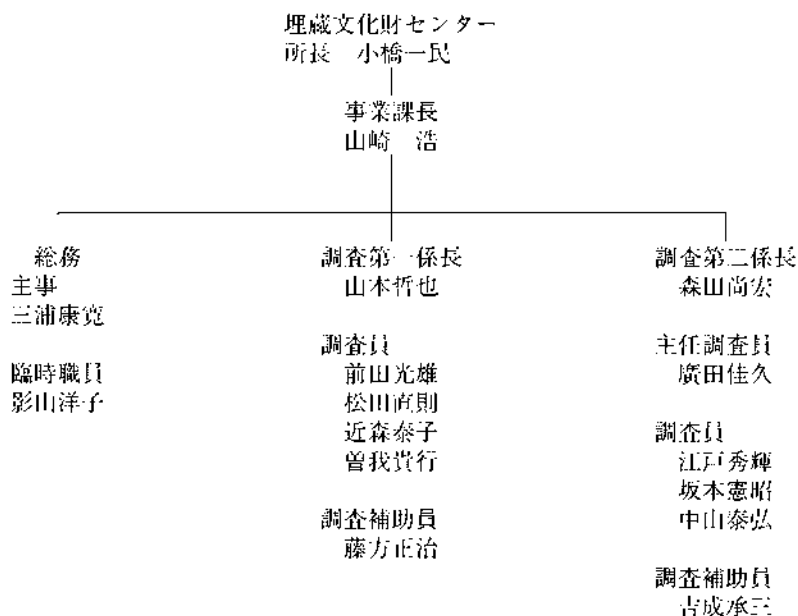
出土遺物や調査記録等の整理・保存を行う。

3) 埋蔵文化財の活用・研究，愛護思想の普及啓蒙

出土した遺物等の公開展示，現地説明会等を開催し，埋蔵文化財に対する愛護思想の普及啓蒙を図る。

4) 埋蔵文化財に関する資料の収集・情報提供に関すること。

(4) 組織及び職員



Ⅲ 年間事業の報告

1. 発掘調査

近年の開発行為の増加に伴い、遺跡の発掘調査も年々増加する傾向にある。埋蔵文化財センターでは、これら発掘調査に対し、受託による発掘調査と職員派遣による発掘調査の2本柱で対応している。大規模調査は調査を原因者からの受託により行う。今後、大規模開発の増加によって、受託による調査が増加すると考えられる。職員派遣による調査は、高知県下の市町村に専門職員が配置されていない現状に基づき、各市町村が主体になって行われる調査に職員の派遣依頼を受け、職員を派遣することによって対応している。

また、高知県教育委員会文化振興課埋蔵文化財班より職員の派遣を受け行われた調査もある。

(1) 受託本発掘調査

平成3年度に受託し発掘調査を行った件数は12件で、調査面積は約20,000㎡であった。特に県より受託した建設省の中筋川改修工事に伴う発掘調査が面積の大半を占めていた。今後は受託先の増加に伴い、調査面積の増加も見込まれる。

(2) 調査員派遣本発掘

市町村よりの職員派遣依頼による本発掘調査の件数は13件で、調査面積は約10,000㎡であった。発掘調査が行われた市町村は、9市町村に及びほぼ県下全域に広がっている。

(3) 受託による試掘調査

本発掘調査に先立つ試掘調査として受託した事業の件数は4件のみであったが、平成4年度に本調査が予定されている中村～宿毛道路の試掘調査が行われ、面積的には約2,000㎡と比較的多かった。今後大規模開発が県下各地で予定されており、それに伴う調査の増加が見込まれ受託による試掘調査も件数、調査面積ともに増加するものと思われる。

(4) 調査員の派遣による試掘調査

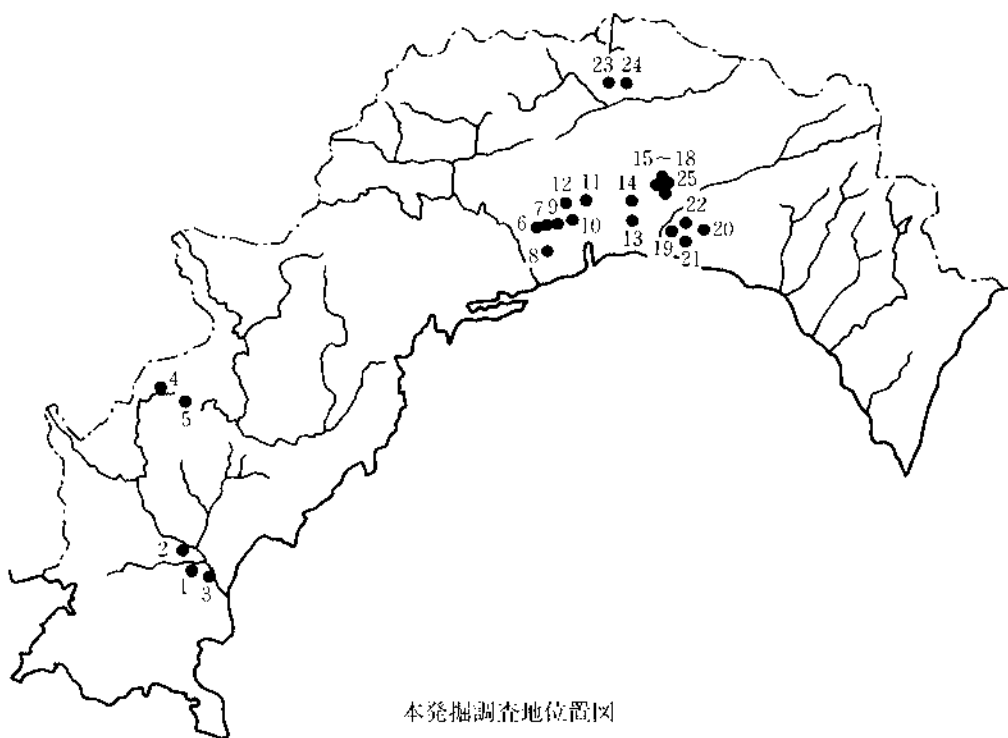
職員の派遣依頼による試掘調査の件数は5件で、調査面積は約900㎡であった。すべて圃場整備事業に伴う試掘調査であり、件数及び調査面積は今後急激な変化はないと思われ、ほぼ横這いの状態で推移するものと思われる。

平成3年度受託発掘調査

遺跡名	遺跡略号	所在地	時期	種別	原因	原因者	面積
具同中山遺跡群	91-1 GN	中村市具同	縄文・近世	祭祀・集落	河川改修工事に伴う緊急調査	建設省	10,000 m ²
扇城跡	91-4 NO	中村市具同	中世・近世	城跡	宅地造成に伴う緊急調査	株日本産業	9,000 m ²
禰地遺跡	91-13 ID	香美郡香我美町禰地	弥生・中世	集落	河川改修工事に伴う緊急調査	高知県	500 m ²
十万遺跡	91-14 JM	香美郡香我美町十万	弥生・中世	集落	施設建設に伴う緊急調査	高知県経済連	400 m ²
今成遺跡	91-16 TY	幡多郡上和村今成	縄文	散布地	道路改良工事に伴う緊急調査	高知県	100 m ²
チシ古城跡	91-17 TC	中村市尖崎	中世	城跡	道路建設に伴う緊急調査	高知県	500 m ²
須江上段遺跡 松の本地区	91-22 YSM	香美郡上佐山田町須江	古代・中世	散布地	鉄塔建設に伴う緊急調査	株四国電力	1,000 m ²
ハザンダ遺跡 キシロ地区	91-23 HK	南国市植田	古代・中世	散布地	鉄塔建設に伴う緊急調査	株四国電力	200 m ²
奈泉寺廃寺跡	91-27 KJ	高知市中奈泉寺	古代	寺跡	道路改良工事に伴う緊急調査	高知県	150 m ²
能茶山窯跡	91-31 KY	高知市鶴部	近世	窯跡	マンション建築に伴う緊急調査	株西部観光企画	130 m ²
王子遺跡	91-32 HB	吾川郡春野町弘岡中王子	縄文・中世	散布地	道路拡幅工事に伴う緊急調査	建設省	400 m ²
西ノ芝遺跡	91-32 HB	吾川郡春野町弘岡上池ノ上ノ前	近世	散布地	道路拡幅工事に伴う緊急調査	建設省	200 m ²

平成3年度職員派遣発掘調査

遺跡名	遺跡略号	所在地	時期	種別	原因	調査主体	面積
芳原城跡	91-2 YS	吾川郡春野町芳原	中世	城跡	個人農地造成に伴う確認調査	春野町教育委員会	800 m ²
鹿持雅登邸跡	91-3 KM	高知市福井町	近世	住居跡	史跡整備に伴う確認調査	高知市教育委員会	600 m ²
野中庵寺跡	91-5 NN	南国市野中	古代	寺跡	公園整備に伴う緊急調査	南国市教育委員会	400 m ²
伏原大塚古墳	91-6 YO	香美郡上佐山田町植田	古墳	古墳	病院建設に伴う緊急調査	上佐山田町教育委員会	700 m ²
上佐岡府跡	91-8 TK	南国市北江	弥生・中世	官衙跡	運動公園整備に伴う緊急調査	南国市教育委員会	200 m ²
野市町本村遺跡	91-9 NH	香美郡野市町本村	弥生	集落	圃場整備に伴う緊急調査	野市町教育委員会	1,000 m ²
須江上段遺跡 コノキ地区	91-10 YSY	香美郡上佐山田町須江	古代・中世	散布地	圃場整備に伴う緊急調査	上佐山田町教育委員会	1,000 m ²
打原遺跡	91-11 KB	香美郡香我美町打原	縄文・中世	集落	圃場整備に伴う緊急調査	香我美町教育委員会	3,000 m ²
高知城跡	91-19 KC	高知市丸ノ内	近世	城跡	施設整備に伴う確認調査	高知県教育委員会	500 m ²
松ノ木遺跡	91-26 MM	長岡郡本山町寺家	縄文・古墳	集落	回廊補助による確認調査	高知県教育委員会	500 m ²
奈路遺跡	91-28 TN	幡多郡上和村奈路	縄文・中世	集落・散布地	住宅建設整備に伴う緊急調査	上和村教育委員会	400 m ²
堀ノ尻遺跡	91-33 MH	長岡郡本山町堀ノ尻	弥生・古代	集落	町道改修工事に伴う緊急調査	本山町教育委員会	250 m ²
美良布遺跡	91-34	香美郡香北町美良布	縄文・中世	集落	健康センター建設に伴う緊急調査	香北町教育委員会	50 m ²



No.	遺跡名	時期	No.	遺跡名	時期
1	具同中山遺跡群	縄文～近世	14	上佐国府跡	古代
2	扇城跡	中世	15	須江上段遺跡ヨコキ地区	古代～中世
3	チシ古城跡	中世	16	須江上段遺跡松の本地区	古代～中世
4	今成遺跡	縄文	17	ハザマダ遺跡キシロ地区	古代～中世
5	奈路遺跡	縄文	18	伏原大塚古墳	古墳
6	王子遺跡	縄文～中世	19	野市町本村遺跡	弥生
7	西の芝遺跡	近世	20	稗地遺跡	弥生～中世
8	芳原城跡	中世	21	十万遺跡	弥生～中世
9	能茶山窯跡	近世	22	拝原遺跡	縄文～中世
10	高知城跡	近世	23	松ノ木遺跡	縄文
11	奈泉寺廃寺	古代	24	堀ノ尻遺跡	弥生～古代
12	鹿持雅澄邸跡	近世	25	美良布遺跡	縄文～中世
13	野中廃寺跡	古代			

平成3年度受託試掘調査一覧

遺跡名	遺跡略号	所在地	時期	種別	原因	原因者	面積
中村一宿毛道路試掘	91-11 NS	中村江ノ村他	縄文～中世	散布地	道路建設に伴う試掘調査	建設省	1,300 m ²
根の首遺跡	91-15 NK	中村市下田	縄文	散布地	公園整備に伴う試掘調査	高知県	200 m ²
浦戸城跡	91-18 UC	高知市浦戸	中世	城跡	公園整備に伴う試掘調査	高知市	70 m ²
松ノ物ヶ内遺跡	91-20 HU	南国市大埴	弥生～中世	散布地	施設建設に伴う試掘調査	南国市農協	160 m ²

平成3年度職員派遣試掘調査

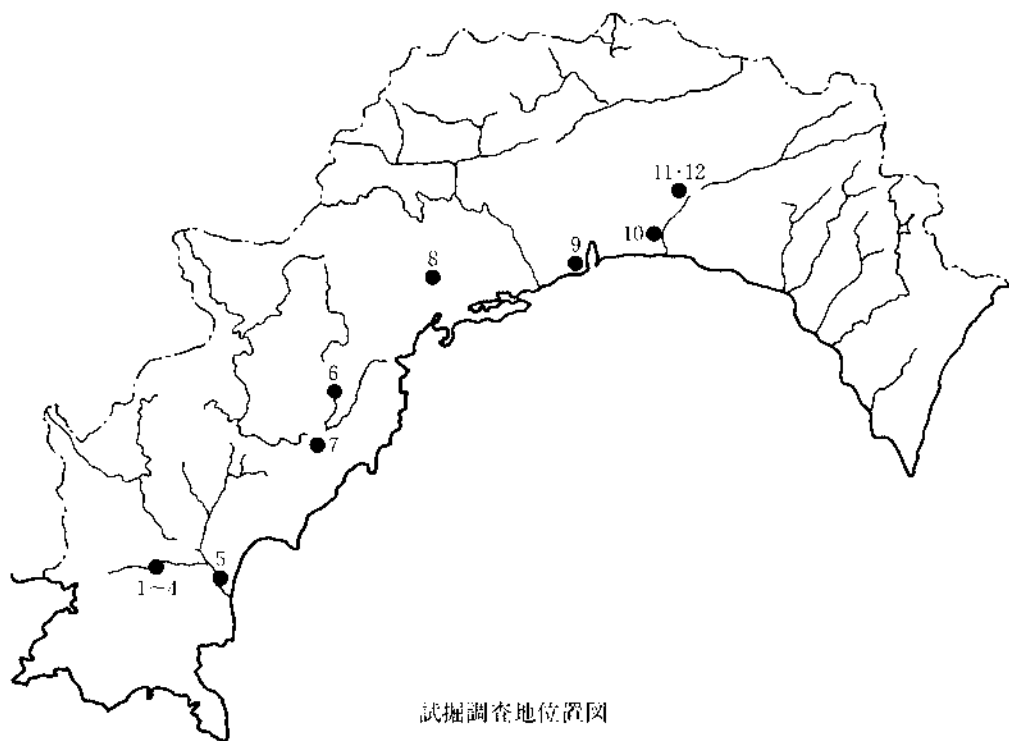
遺跡名	遺跡略号	所在地	時期	種別	原因	調査主体	面積
窪川北部遺跡群	91-7 KK	高岡郡窪川町沖代他	弥生～近世	散布地	圃場整備に伴う試掘調査	窪川町教育委員会	100 m ²
窪川南部遺跡群	91-24 KN	高岡郡窪川町峰の上他	古代～中世	散布地	圃場整備に伴う試掘調査	窪川町教育委員会	150 m ²
斗賀野遺跡群	91-25 ST	高岡郡佐川町斗賀野	弥生～中世	集落・官衙	圃場整備に伴う試掘調査	佐川町教育委員会	400 m ²
シタノチ遺跡	91-29 YG	香美郡土佐山田町林田	縄文～中世	散布地	圃場整備に伴う試掘調査	土佐山田町教育委員会	120 m ²
山田北部遺跡群	91-30 YH	香美郡土佐山田町植	弥生～中世	散布地	圃場整備に伴う試掘調査	土佐山田町教育委員会	100 m ²



シタノチ遺跡遺構検出状態



浦戸城跡試掘写真



試掘調査地位位置図

No.	遺跡名	時期	No.	遺跡名	時期
1	中村～宿毛道路松ガハナ城跡	中世	7	窪川南部跡遺跡群	古代～中世
2	中村～宿毛道路江ノ古城	中世	8	斗賀野遺跡群	弥生～中世
3	中村～宿毛道路間遺跡	—	9	浦戸城跡	中世
4	中村～宿毛道路西ノ谷遺跡	弥生～中世	10	桧物ヶ内遺跡	弥生～中世
5	根の首遺跡	縄文	11	シタノチ遺跡	縄文～中世
6	窪川北部遺跡群	弥生～近世	12	山田北部遺跡群	弥生～中世

2. 発掘調査報告書刊行・資料管理

平成3年度に発掘調査を行った遺跡については、刊行物として、できるだけ早く公開できるよう現地調査終了後、出土遺物、図面、写真等を整理し、接合、実測、トレース及び写真撮影を行い、報告書及び概報を刊行した。

なお、整理した遺物等の資料は、当センターに仮保管を行っている。資料収集として図書資料の収納を行い、県内外の考古学、郷土史等の文献を収集するほか、各研究機関をはじめとする諸機関からの寄贈図書の受け入れを行い、資料の整理と収納を行っている。

(1) パンフレット作成

本年度は、埋蔵文化財センターの設立初年度に当たり当センターの概要を説明し、埋蔵文化財及び当センターについての理解を深め一般の人々にも親しみをもってもらうことを目的に作成された。パンフレットは当センターに来訪した人を中心に配布するとともに、関係各位に配布した。

(2) 平成3年度刊行物一覧表

平成3年度埋蔵文化財センター刊行報告書

	書名	所在地	執筆者
第1集	中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ 共同中山遺跡群	中村市共同	前田、松田、廣田、江戸、藤方
第2集	県史跡 鹿持雅澄邸跡	高知市福井町	廣田
第3集	扇城跡	中村市共同	森田、吉成
第4集	十方遺跡	香美郡香我美町十方	藤方
第5集	チシ古城跡	中村市実崎	吉成
第6集	岡豊城跡	南国市岡豊町	森田
第7集	ひびのきサウジ遺跡	香美郡土佐山田町楠目	曾我
第8集	王子遺跡、西ノ芝遺跡	吾川郡春野町弘岡	山本、江戸、吉成、坂本
第9集	須江上段遺跡松の本地区	香美郡土佐山田町須江	中山
第10集	須江上段遺跡ヨコキ地区	香美郡土佐山田町須江	中山

平成3年度市町村刊行埋蔵文化財報告書

	書名	所在地	発行者
1	高柳遺跡発掘調査報告書	香美郡土佐山田町	土佐山田町教育委員会
2	山田北部遺跡群試掘調査報告書	香美郡土佐山田町	土佐山田町教育委員会
3	松ノ木遺跡調査報告書Ⅰ	長岡郡本山町寺家	本山町教育委員会
4	松ノ木遺跡調査報告書Ⅱ	長岡郡本山町寺家	本山町教育委員会
5	竹シマツ遺跡・宮崎遺跡	輪多郡大方町加持	大方町教育委員会

3. 普及啓蒙事業

埋蔵文化財センターでは、その設立の目的の一つである普及啓蒙事業にも積極的に取り組み現地説明会・小中学生対象の学習会や出土遺物展示会・講演会を開催するとともに、学校等への資料提供や出版物の刊行も行った。

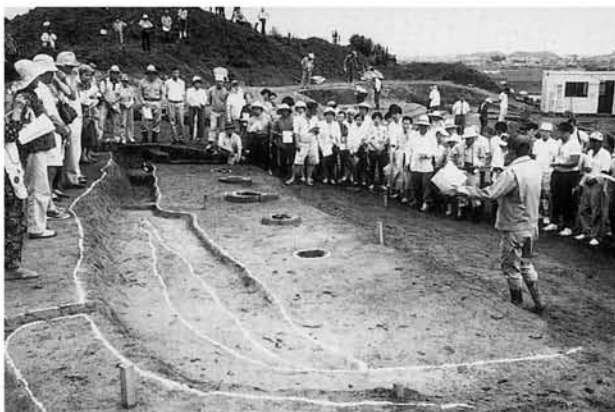
(1) 現地説明会

発掘調査を行った遺跡については、発掘調査終了後、広く県民にその成果を公開し埋蔵文化財についての理解と認識を深めるとともに、地域の歴史についての知見を広めることを目的に現地説明会を実施した。

今年度実施された現地説明会は9回で、各現地説明会ともに地元の方々を中心に約100人程度の来場があった。質疑応答も行われるなど盛況であった。今後もできるだけ多く現地説明会を実施し多くの方々に埋蔵文化財についての興味や関心が深まるようにしてゆきたい。

遺跡名	開催日	会場	主催	参加人数
鹿持雅澄邸跡	平成3年 5月18日(土)	高知市福井町	埋蔵文化財センター	80名
芳原城跡	平成3年 6月16日(日)	春野町芳原	春野町教育委員会	100名
松ノ木遺跡	平成3年 7月20日(土)	長岡郡本山町寺家	本山町教育委員会	150名
具同中山遺跡群	平成3年 8月4日(火)	中村市具同	大月町教育委員会	60名
具同中山遺跡群	平成3年 8月7日(金)	中村市具同	中村市教育委員会	60名
伏原大塚古墳	平成3年 9月21日(土)	香美郡土佐山田町楠目	埋蔵文化財センター	110名
扇城跡	平成3年 9月28日(土)	中村市具同	埋蔵文化財センター	50名
拝原遺跡	平成3年 10月12日(土)	香美郡香我美町拝原	香我美町教育委員会	100名
野市町本村遺跡	平成4年 2月17日(土)	香美郡野市町本村	野市町教育委員会	70名

(具同中山遺跡群については、市町村主催の小中学生のための親子学習会)



現説風景

(2) 展示会

現地説明会だけでなく、より多くの人に、埋蔵文化財について親しみを持ち興味、関心を深めてもらうことを目的に出土遺物の展示会や講演会も企画している。今年度は、県立歴史民俗資料館との共催により「土佐を掘る」のテーマで同資料館で企画展を開催した。出土遺物、パネルによる展示だけでなく、併せて講演会も行った。

また、各市町村が開催する埋蔵文化財展示会等には資料提供等積極的に協力した。

なお、当センターでは、出土遺物や写真の保管管理を行い、見学希望者は見学ができるようになっている。今年度は、「県政バス」が見学に訪れるなど見学者も多数あった。今後、資料提供、見学者とも増加すると思われる。

展示会名 「土佐を掘る」 — 第1回発掘された遺跡展 —

会場 高知県立歴史民俗資料館

期間 平成4年1月18日～3月15日

特別講演 「宗教考古学が語る平安時代の土佐」

講師 高松短期大学教授 岡本健児氏

開催日 平成4年2月29日



高松短期大学教授
岡本健児氏

講演 「1988年～1991年度の発掘成果から」

開催日 平成4年1月18日

講師 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査第1係長 山本哲也

演題 「大谷古墳」

講師 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査第2係長 森田尚宏

演題 「十川駄場崎遺跡」

講師 高知県教育委員会 文化振興課 主幹 出原恵三

演題 「西分増井遺跡」

開催日 平成3年2月15日
 講師 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 主任調査員 廣田佳久
 演題 「土佐国府跡と寺院跡」
 講師 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査員 前田光雄
 演題 「具同中山遺跡群」
 講師 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査員 松田直則
 演題 「中世の山城－岡豊城跡・芳原城跡」

展示会名 「具同中山遺跡群調査報告会」 ―古代のロマンにふれあおう―
 会場 中村市立公民館
 期間 平成3年9月7,8日
 講演 「中筋川流域の原始と古代の文化」
 講師 中村市文化財保護審議会委員 木村剛朗氏
 報告 「具同中山遺跡群調査報告」
 報告者 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査員 前田光雄
 同 調査員 松田直則



具同中山遺跡群調査報告会風景

IV 本発掘調査概要

具同中山遺跡群 (91-1 GN)

1. 所在地 中村市具同字中山
2. 立地 中筋川流域沖積地微高地
3. 時代 縄文晩期, 弥生～古墳時代, 古代, 中近世
4. 調査期間 平成3年5月9日～同年10月24日
5. 調査面積 2,600 m²
6. 担当 前田光雄・松田直則・藤方正治・江戸秀輝



7. 調査内容 縄文時代の遺構は検出されていないものの、晩期の刻目突帯文土器数点と打製石斧1点が出土している。県下の晩期の中村Ⅱ式に相当する。弥生時代も同様に住居跡等の遺構は検出されていないものの、焼土跡30ヶ所余りと前期から後期までの土器で実測可能な個体50点余りが出土している。遺物及び焼土跡は平坦面に散在するような状況で、集中は余り認められないものの、祭祀跡の可能性が考えられる。

古墳時代については、前年度に続いて祭祀のみ3ヶ所を検出した。SF 19は前年度調査区に隣接し、平坦面に立地する。白玉、須恵器坏身、同蓋、高坏、甕、甕、土師器高坏、甕、甕、が祭祀を構成する遺物である。遺物は径8m程の範囲内にやや散在するような状況で、破碎されないで出土している。SF 20・21は前年度調査区より200m程上流の調査区の平坦面で検出した。共に遺物は広い範囲に亘って出土している。SF 20・21を構成する遺物群は白玉、土玉、土製勾玉、土製模造鏡、手捏ね土器等の祭祀遺物の他、日常雑器の須恵器坏、同蓋、高坏、土師器脚付碗、高坏、壺、甕、甕、また赤色顔料の付着した叩き石等である。時期的には5世紀代を中心とするものと考えられ、本遺跡群の祭祀は大規模であることが判明している。

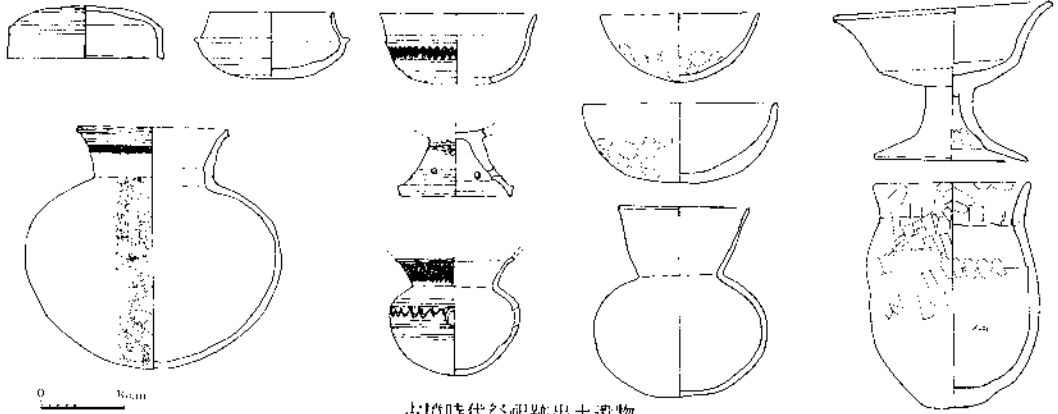
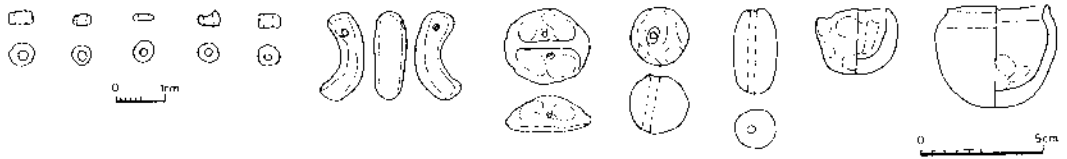
古代については、今調査区は中心地からはずれ、柱穴約40基、遺物も土師器碗が僅かに出土しただけである。中世については、前年度と同様、集落跡を確認し、掘立柱建物跡8棟、溝2条等を検出した。中でも注目されるのは土壙墓で、壙内より破碎された龍泉窯系鎬蓮弁文青磁碗4点、白磁1点、土師質鉢等が出土している。平面形はほぼ長方形を呈し、規模は長軸1.6m、短軸1.2m、深さ38cmを測る。土器以外に人頭大の礫数十点、及び炭化材が出土し、また壙底には厚さ2cm程の炭化物層が堆積していることからして、壙内において茶毘にふされた可能性があり、また時期的には13世紀代と考えられる。



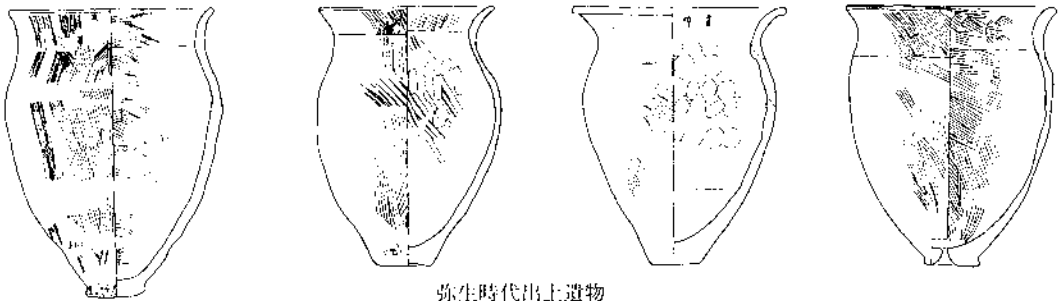
遺物出土状況



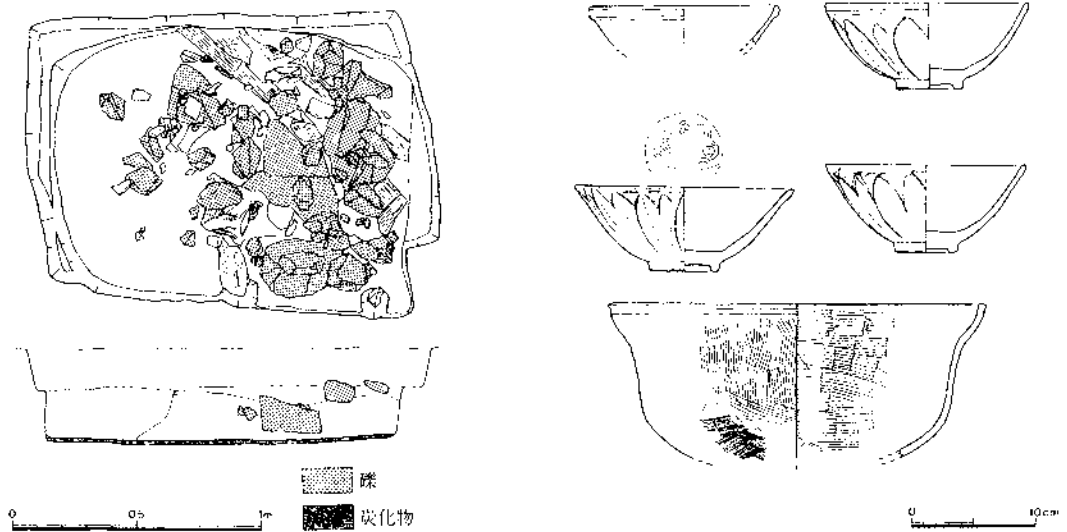
中世墓



古墳時代祭祀跡出土遺物



弥生時代出土遺物



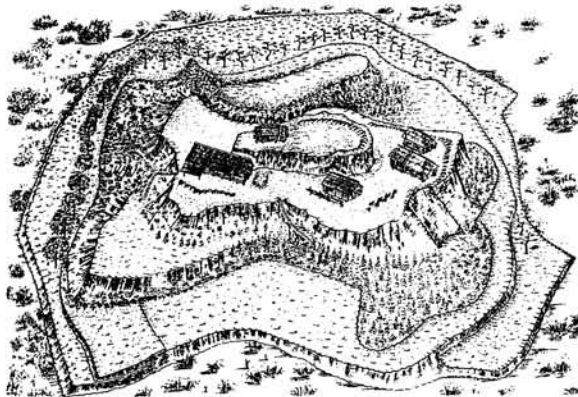
中世墓・出土遺物

よしはら
芳原城跡 (91-2 YS)

1. 所在地 吾川郡春野町芳原
2. 立地 独立丘陵
3. 時代 戦国時代
4. 調査期間 平成3年4月22日～6月27日
5. 調査面積 1,000 m²
6. 担当 松田直則



7. 調査内容 芳原城跡は、吾南平野の独立丘陵に構築された中世の山城である。昭和58年には山城周囲の堀状地形部分の調査が実施されており、多量の木製品が出土し注目された。今回の調査は、本格的に山城の部分に入った。長宗我部地検帳に、木津賀古城とされ「詰ノタン・北蔵ノタン・政所ノタン・弓場タン」と記載されている所にあたる。今回の調査は、「詰ノタン」と記載されている場所で、詰と呼んでいる頂上部分と、その他詰を取り巻く一段低い地点である。平成2年度にも調査を実施しているが、今回約70%の調査が終了している。詰の部分は、約700 m²の広さを有し、南半分は遺構を検出できなかったが北半分は掘立柱建物跡を検出することができた。この建物跡は、岩盤をL字状にカットして平坦部を造り出し構築されている。規模は2間×4間で櫓的な建物と考えることができる。床面には、焼土が広範囲に確認でき、落城に際して火災がおきていることが分かる。二ノ段は、約2,000 m²の広さをもつ場所で詰を取り囲む帯曲輪である。遺構は、掘立柱建物跡4棟、土塁状遺構、土坑が検出されている。二ノ段の南側に2棟、西側に1棟、北側に1棟の配置である。北側に位置する掘立柱建物跡は、2間×7間の大規模な建物跡で、その性格を考えていくうえで貴重である。来年度に最後の調査が実施されるが、出土遺物の検討も含め建物の正確な時期とその性格を明らかにして城跡の復元をしていく必要がある。特に北側で検出された大規模な建物跡が、地検帳記載の「政所ノタン」と一致するのか等、文献・考古学両面からの考察が必要となってくる。



想像復元図



二ノ段掘立柱建物

かもちまさずみ

鹿持雅澄邸跡 (91-3 KM)

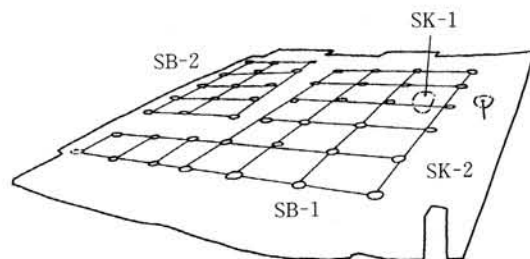
1. 所在地 高知市福井町 1226-2
2. 立地 高知市北西部の低丘陵南斜面標高約 10 m の位置
3. 時代 江戸時代
4. 調査期間 平成 3 年 4 月 22 日～5 月 22 日
5. 調査面積 227 m²
6. 担当 廣田佳久



7. 調査内容 鹿持雅澄 (1791～1858) は万葉集の研究で著名な人物で、『万葉集古義』を著し、その邸跡は昭和 38 年 7 月 5 日に県史跡の指定を受け、保存されてきた。同邸跡は現状では公園となっており旧態をほとんど留めないが、一隅には当時のものと伝えられる井戸が残っている。今回の調査は、高知市が雅澄生誕 200 年を記念して同邸跡の整備事業を計画したのに先だち、高知市の委託を受け当該史跡の遺存状況を確認する目的で実施したものである。調査の結果、2 棟の掘立柱建物跡と 4 基の土坑が確認された。この内、2 基の土坑は検出状況からみて便所跡と考えられるもので、その時期は出土遺物から 19 世紀代のものとみられる。この邸跡については「鹿持雅澄旧邸の聞き書」橋詰延寿 (1888 年頃の様子) があり、その中に記載されている便所の位置とほぼ一致しており、旧邸のものであった可能性が高いと言える。また、この聞き書の中には旧邸の建物の規模も記載されており、それからすると南北 3 間、東西 6 間の礎石建ちの東西棟建物であったと推察される。しかし、この鹿持邸は後に畑地となっていることから耕作に支障となる礎石などの石は取り除かれたものとみられ、地表下に掘り込まれた便所などが壊されずに残っていたので確認できたと思われる。一方、確認された 2 棟の掘立柱建物は、聞き書には記載されていないが、19 世紀前半の整地層の上から掘り込まれたものであることからそれ以降の建物であると言える。この時期は丁度鹿持雅澄が生存していた時期と重なる。この建物が誰が住んでいたかは考古学的に言明できないが、この地が鹿持雅澄邸であったならばこの 2 棟は正に鹿持雅澄邸であったと言わざるを得ないのではなかろうか。また、この 2 棟は掘立柱建物という旧形態をとっており、かつ、内 1 棟は「角屋造」と称されるもので、今後近世住宅を研究するうえでの貴重な資料となろう。



完掘状態



掘立柱建物配置図

おうぎ
扇城跡 (91-4 NO)

1. 所在地 中村市具同字ミノコシ他
2. 立地 四万十川と中筋川合流点北西の丘陵上
3. 時代 戦国時代
4. 調査期間 平成3年5月14日～10月9日
5. 調査面積 約9,000 m²
6. 担当 森田尚宏・吉成承三



7. 調査内容 扇城跡は戦国時代の山城跡として知られていたが、築城年代、存続時期、城主等については文献資料もなく、その姿は不明である。城跡は高森山から延びる丘陵の先端部に位置し、四万十川と中筋川の合流地点に近く、中村市、宿毛市方面への眺望も開けた立地である。扇城跡から東へ延びる尾根上には「ナリカド城跡」が、南へと続く尾根の先端部には「栗本城跡」が存在している。栗本城跡は昭和57年に発掘調査が行われており、15～16世紀の遺構、遺物が検出されている。

扇城跡の構造は、調査前の状況からみれば、標高約55mを測る南北2ヶ所の頂部に中心となる曲輪が存在し、これに付随する曲輪が尾根上に構築されている。また、曲輪間には6本の堀切がみられ、尾根上に連続的に築造された城跡である。発掘調査の結果、南北の両曲輪を中心に岩盤を掘り込んだ柱穴が多数検出され、掘立柱建物跡の存在が確認された。また、南郭では南西の縁辺部岩盤を2段に削り込み造られた平坦面に掘立柱建物跡が存在し、北郭では土塁と堀切に面した柱穴が検出されている。6本の堀切の中では南郭に伴うものが幅約3m、深さ2mと規模が大きい。出土遺物では青磁が最も多く、白磁、染付、備前、瀬戸等の他に渡来銭、青銅製呼子が見られ注目される。時期的には15～16世紀が中心であるが、13～14世紀の遺物も少量ながら存在し、16世紀後半の遺物もみられることから、長期にわたる存続期間が考えられる。栗本城跡が、一条氏と長宗我部氏の間で戦われた渡川の合戦時に一条方が陣を張ったと言われているが、尾根続きの扇城跡、ナリカド城跡も同時に使用されたと考えられ、U字形を呈する連郭式の城郭として位置付けられる。



南郭部



北郭部

のなか

野中廢寺跡 (91-5 NN)

1. 所在地 南国市野中字鐘突 599-1 他
2. 立地 舟入川右岸の微高地上に立地
3. 時代 平安時代
4. 調査期間 平成3年6月18日～7月28日
5. 調査面積 400 m²
6. 担当 山本哲也・近森泰子・中山泰弘



7. 調査内容 公園建設に伴い、JR土讃線後免駅の西方約700m、線路南側の壇状地形周辺を調査した。野中廢寺跡は、平安時代前半に創建されたと考えられる寺院跡で、主要伽藍の基壇跡とみられる壇状地形が線路を挟んで南と北の二ヶ所に遺存している。昭和38年の調査により、版築による基壇形成が明らかにされると共に、平安時代前半を中心とした瓦類・土器類が出土している。今回の調査では、土壙10基、基壇跡等が検出され瓦類・瓦質土器・土師質土器・石製品など古代～中・近世の遺物が出土した。検出遺構のなかで基壇跡は、黒褐色粘質土と褐色粘質土を厚さ約1.2m以上にわたって互層積みしたもので、基壇下部は地山（黄茶褐色粘礫土）を穿って版築を施した一種の掘り込み基壇であることが判明した。基壇上部は、中、近世の土壙（中・近世墓）などによって削平を受けているため、この基壇に伴う柱穴・礎石痕

は検出されなかったが、基壇跡周辺に瓦類の散布が認められるなど、建物跡が存在していた可能性が濃厚である。検出状況から野中廢寺跡の主要伽藍の基壇が墓地など後世の削平をうけつつ壇状地形として遺存したことを再確認した。基壇の性格については、遺構の残存状態や周辺が宅地化されている等から現状では不明瞭である。土地の地名から、鐘楼等の存在が推定されるが、今後の調査により明確にされることが期待される。なお、瓦類が基壇跡周辺から多量に出土している。出土瓦は、鏡瓦・丸瓦・平瓦で、鏡瓦は周縁に珠文帯を配した複弁八葉蓮華文と忍冬八葉蓮華文の二種類である。宇瓦は、これまでの出土瓦により重弧文字瓦の存在が知られている。忍冬八葉蓮華文鏡瓦については、高知市中秦泉寺所在、秦泉寺廢寺跡出土の平安期鏡瓦と同範であることが、新たに確認された。



基壇跡検出状態（南から）



野中廢寺跡出土鏡瓦拓影(1/4)

(左)複弁八葉蓮華文 (右)忍冬八葉蓮華文

伏原大塚古墳 (91-6 YO)

1. 所在地 香美郡土佐山田町楠目字伏原大塚 678
2. 立地 物部川右岸の標高約 50 m の長岡台地上に位置
3. 時代 古墳時代
4. 調査期間 平成 3 年 8 月 1 日～9 月 30 日
5. 調査面積 500 m²
6. 担当 廣田佳久



7. 調査内容 伏原大塚古墳は、県下に残る唯一の前方後円墳と考えられており 1977 年（昭和 52 年）に町史編纂事業の一環として墳丘部の調査が行われた。それ以来本格的な調査は行われておらず、この間周辺部の宅地化が進み当古墳にも少なからず影響を及ぼしてきた。そのため、平成 3・4 年度の 2 ヶ年をかけ遺存状況確認の発掘調査を実施することとなった。その結果、思いがけない幾多の事実が判明した。その第一は、当古墳が前方後円墳ではなく県下初、四国でも数少ない前方後方墳であったことである。さらに、調査した後方部の長さが 35 m もあること、築造された時期が 6 世紀前半であること等を考慮すると全長は少なくとも 75 m 前後と考えられ、四国でも上位にランクされ、前方後方墳としては四国では最大級の古墳であることが判明した。もちろん県下最大規模の古墳であり、香長平野を一望できる位置に築造されていること県下最多の副葬品（有蓋高坏・台付直口壺・子持広口壺・台付広口壺）などが出土していることから考えて物部川水系を支配した首長墓であったと考えられる。第二は、2,000 点にも及ぶ円筒埴輪片が周溝から出土したことである。昭和 52 年の調査の際にも数点の円筒埴輪片が出土したが、疑問視する意見もあった。しかし、今回周溝に投棄された状態で多量に出土したことにより、埴輪の存在は確実にされた。また、これら埴輪は比較的珍しい須恵質の埴輪で、スカシ窓のない円筒埴輪のみである。断面形は楕円形を呈し直径約 35 cm、短径約 30 cm、高さ約 66 cm を測る。外面には断面台形状のタガを 2 条巡らしている。整理中のため詳細は不明であるが、口縁部の形態、大きさ等により数種類に分類できそうである。なお、埴輪



伏原大塚古墳

が周溝に投棄された時期は伴出した土師質土器から 15 世紀頃と考えられる。第三に、古墳の構築方法として版築工法をとっていたことを確認したことが挙げられる。当古墳の場合は砂礫土と黒色粘質土を交互に敷き詰めていた。そして、最後に供献土器（土師器の甕）の出土を挙げることができる。丁度、周溝コーナー部基底面から出土した。意外な発見が多く今年度の調査でも新たな成果が期待される場所である。

のいち ほんむら
野市町本村遺跡 (91-9 NH)

1. 所在地 香美郡野市町本村
2. 立地 標高約 35 m の丘陵斜面に位置
3. 時代 弥生時代
4. 調査期間 平成 3 年 9 月 9 日～平成 4 年 2 月 1 日
5. 調査面積 1,000 m²
6. 担当 坂本憲昭
7. 調査内容 野市町本村遺跡の発掘調査は、同地区の圃場整備事業に伴う事前の試掘調査として 3 回にわけ行われたが一部本調査を兼ねて行われた。



本村遺跡は、三宝山から南に派生した標高 35 m の丘陵に立地しており周辺には弥生時代前期から中期の遺跡である下分遠崎遺跡が所在している。

今回の調査で本村遺跡は弥生時代中期の遺跡であることが判明した。検出された遺構は、堅穴住居址が 2 棟と遺物が集中的に出土する地点が 2 ヶ所であった。ST 1 は丘陵頂上部下の平地 (30.1 m) の岩盤に掘り込まれていた。住居址の直径は約 5 m で内側には、壁溝が巡っていた。この住居址は後世の開墾によってかなり削平せられ、のこりの状況は良くなく、遺物はこのため、ほとんど出土しなかった。ST 2 は ST 1 の真下の斜面 (29.2 m) に位置し直径約 7 m の半円型を呈しており、岩盤を掘り込み造られていた。壁高は約 70 cm で、住居址内には壁溝が巡るが途中 2 条にわかれ、この住居址が拡張及至建て直しが行われたことが推定される。住居址内の埋土からはサヌカイトの剥片や弥生時代中期の土器、石鏃等が出土している。

今回の調査で丘陵斜面部に弥生時代中期の集落が営まれていたことが確認されたが、遺跡の全体像を明らかにするには至らなかった。このため平成 4 年度に改めて本調査を実施し本村遺跡の全体像を明らかにしたい。



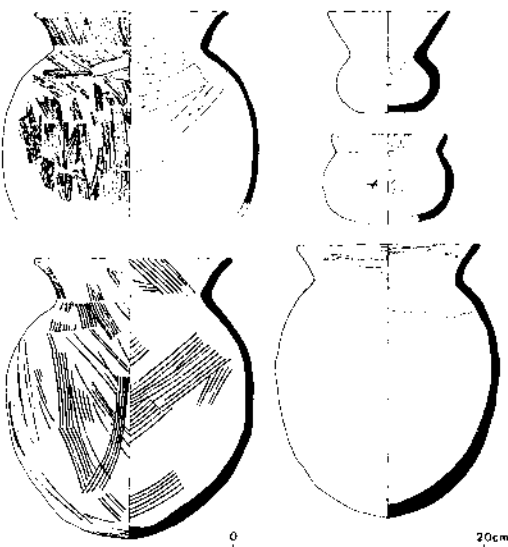
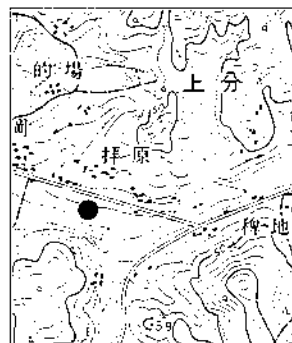
左上 ST1, ST2 完掘状態

左下 ST2 完掘状態

右上 土器集中出土状態

はいばら
拝原遺跡 (91-11 KB)

1. 所在地 香美郡香我美町上分拝原
2. 立地 山南川右岸の河岸段丘
3. 時代 縄文時代後期・弥生時代～室町時代
4. 調査期間 平成3年7月30日～10月19日
5. 調査面積 3,000 m²
6. 担当 高知県教育委員会 出原恵三
7. 調査内容 弥生時代後期後半～古墳時代前期と後期及び鎌倉・室町時代を中心とする集落遺跡である。弥生時代後期の住居址は4棟ですべて円形プランを有し、うち2棟はベッド状遺構をもっている。これら4棟は出土土器から見て2棟ずつが同時期に存在していたことが考えられる。すなわちベッド状遺構を持たないものが古く、ベッド状遺構を有するものが新しく位置付けられる。続く古墳時代前期の住居址も2棟存在する。共に方形を呈し1棟は一辺6mを測り、他の1棟は一辺3.6mと小型であるが、両者共床面から4世紀代の良好な壺・甕・高坏などが数多く出土している。5世紀代の遺構遺物は確認できなかったが、6世紀のものとしては北壁にカマドをもった3棟の方形竪穴住居を検出することができた。そしてこの時期には住居群の北に幅4m、長さ80m以上の大溝が掘削されている。この大溝はその方向から見て、集落の南を流れる山南川から水を取り、集落の西方低地に存在したと考えられる水田に水を引くための灌漑用水路であると考えられる。これら一連の住居址群は、5世紀が欠如しているもの、山南川流域における弥生時代後期中葉から古墳時代にかけて継起的に展開した小集落として位置付けることができよう。そして同時に存在した2～3棟の住居址群が農業経営を可能にする最小単位として把握することができる。当遺跡に近接して、弥生後期～古墳時代の稗地遺跡・十萬遺跡が確認されているが、竪穴住居址のあり方など当遺跡と共通する内容をもっている。このような小集落のいくつかが山南川という紐帯で結ばれ、より大きな集落を構成し、水路掘削などの大土木工事などにあたったものと考えられる。



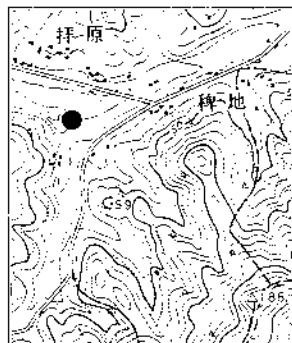
古墳時代前期住居址出土土器

の、山南川流域における弥生時代後期中葉から古墳時代にかけて継起的に展開した小集落として位置付けることができよう。そして同時に存在した2～3棟の住居址群が農業経営を可能にする最小単位として把握することができる。当遺跡に近接して、弥生後期～古墳時代の稗地遺跡・十萬遺跡が確認されているが、竪穴住居址のあり方など当遺跡と共通する内容をもっている。このような小集落のいくつかが山南川という紐帯で結ばれ、より大きな集落を構成し、水路掘削などの大土木工事などにあたったものと考えられる。

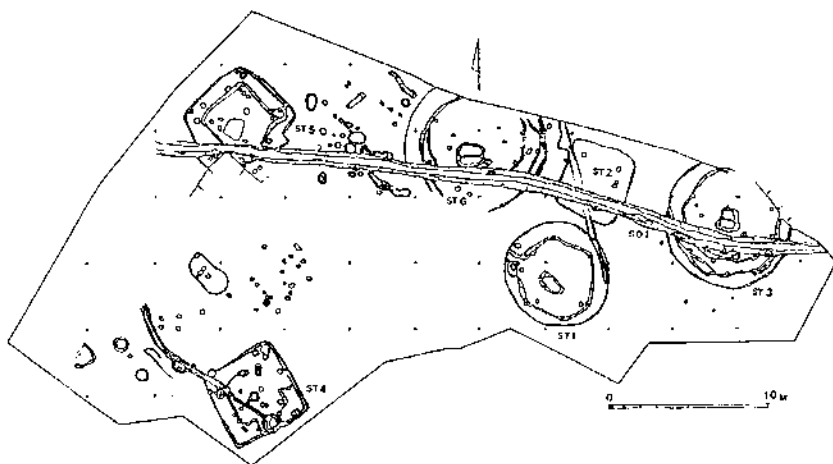
以上のように拝原遺跡の調査は、当時の村落形態のあり方を考える上で貴重な資料を得ることができた。

ひよち
稗地遺跡 (91-13 HD)

1. 所在地 香美郡香我美町上分字稗地
2. 立地 山南川左岸の河岸段丘上
3. 時代 弥生時代～中世
4. 調査期間 平成3年10月28日～11月28日
5. 調査面積 500 m²
6. 担当 高知県教育委員会 松田知彦・出原恵三
7. 調査内容 山南川河川改修工事に先立って試掘調査を実施したところ、耕作土直下より弥生時代～古墳時代の遺構が確認されたため、本遺跡の工事対象区域を全面発掘調査した。



山南川河川改修工事に先立って試掘調査を実施したところ、耕作土直下より弥生時代～古墳時代の遺構が確認されたため、本遺跡の工事対象区域を全面発掘調査した。比較的小規模な調査であったにもかかわらず、古墳時代初頭の竪穴住居跡6棟 (ST1～6) を検出した。ST1・3・6が円形に、ST2・4・5が方形に属する。円形住居跡はベッド状遺構を有しており、ST1は削り出し法、ST3・6は版築法によっている。方形住居跡は円形住居跡に比べ全体的に小規模で、特にST2においてその傾向が著しい。ST4・5は方形のベッド部を有しており、ST4の南東壁下には2m×1.5m、深さ50cmの屋内貯蔵穴が付属し、完形品を含む多量の土器が出土している。出土遺物については、各住居跡より多量の壺・甕・鉢・高坏等が出土しているが、今次調査においては特に鉄器の出土が注目される。ST5からは穂摘具と鉄鎌、ST3からは鉄鍬が出土している。鉄製穂摘具は長さ5cm、幅2.7cmあり、両端を折り返したもので完全な形を保っている。鉄器資料の少ない本県にとっては貴重な発見と言えるべきである。土器では、在地産のものに混じて大阪の河内平野で作られた甕が出土している。高知県では、竪穴住居数棟の小集落が中・小河川の段丘上に点々と立地しているのが古墳時代初頭の景観であり、本遺跡も拝原遺跡等と共に、山南川流域で農耕を営んでいた代表的な遺跡の一つに数えられる。

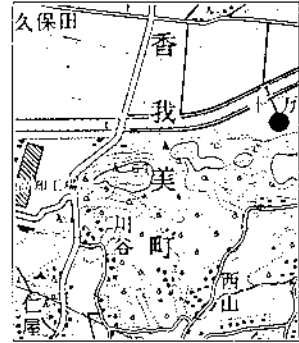


稗地遺跡検出遺構全体図

じゆうまん

十万遺跡 (91-14 JM)

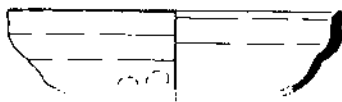
1. 所在地 香美郡香我美町上分十万
2. 立地 香宗川中流域左岸 標高約 14 m
3. 時代 弥生時代・奈良時代・室町時代
4. 調査期間 平成 3 年 10 月 29 日～11 月 21 日
5. 調査面積 約 300 m²
6. 担当 藤方正治・山本哲也・近森泰子



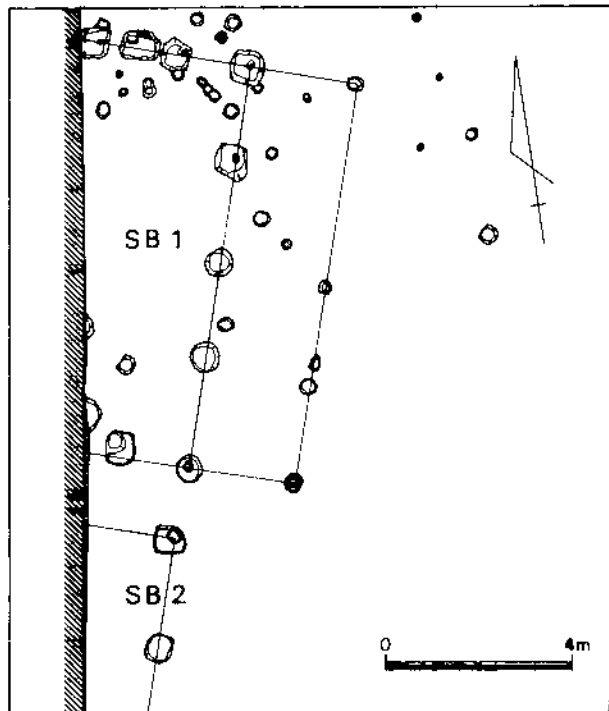
7. 調査内容 出土遺物は大多数を弥生土器の破片が占めるものの、同時代の遺構確認には至らなかった。遺構は、古代の柱穴群と掘立柱建物 2 棟、中世の柱穴群、近世の上墳墓 5 基である。

弥生土器では前期の壺の破片の出土が見られ、それらの多くが胎土に赤色チャート粒を含む。古代の掘立柱建物は、隅丸方形と不正円形の柱穴を合わせ持つもので、二棟とも部分的な検出ではあったが棟方向を同じくするものと考えられる。一棟は東側に廂を持つものであり、この建物を構成する柱穴からは 8 世紀代のもと考えられる土師器の皿の破片が出土している。中世の遺構は柱穴のみであったが、包含層からは 15 世紀代に比定される土師器の皿や羽釜、備前焼の壺等の破片が出土している。

本調査の終了後、同年 12 月に行われた香我美町による試掘調査の結果から、十万の古代集落は南東方向から延びる舌状小尾根の縁辺に存在したものと考えられる。

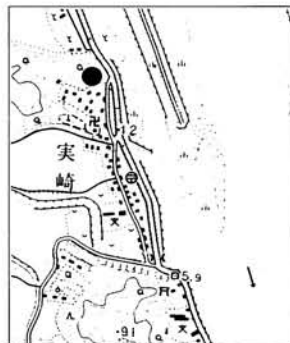


上：手づね成形の土師器・皿（15 世紀）
 下：回転台成形の土師器・皿（8 世紀）
 右：SB 1・SB 2 平面図



チシ古城跡 (91-17 TC)

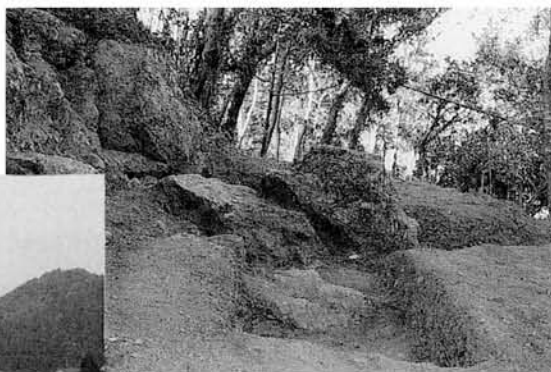
1. 所在地 高知県中村市実崎字シロヤマ 1407, チジ 1359
2. 立地 四万十川下流域右岸 丘陵端部 標高約 38 m
3. 時代 戦国時代
4. 調査期間 平成 3 年 11 月 5 日～12 月 5 日
5. 調査面積 約 320 m²
6. 担当 吉成承三



7. 調査内容 チシ古城跡は、四万十川下流域右岸に立地する標高約 38.5 m の中世の山城である。城跡としての形状は単郭で、現状では、詰、土塁状地形、腰曲輪状平坦面がみられたが、詰部は後世に小学校が構築されていたため攪乱が著しく、遺構は検出されなかった。詰北部に存在する土塁状地形についても、小学校構築時に造られたものと思われる。また、詰北東斜面部の腰曲輪状平坦面では、土師質土器、青磁、備前、土錘が出土した。城跡の築城年代、城主等は不明であるが、地帳帳に、長宗我部家臣の光富次良兵衛の名をみることができる。光富次良兵衛は、山路城城主でもあり、長宗我部氏が検地を行った天正 17 年には、当城跡の所領も分与されており、この記載事実から、山路城跡との何らかの関連性がうかがわれる。立地的にみても両城跡とも四万十川下流の右岸に立地し、西から連なる丘陵端部に所在する事、また、二城の間は 1.5 km と近接している事から考えて、チシ古城跡は、山路城跡の出城的な存在であった可能性が強い。さらに、出土遺物からみて 15 世紀後半～16 世紀前半の一条氏配下の時代を中心とする城郭であったと考えられる。



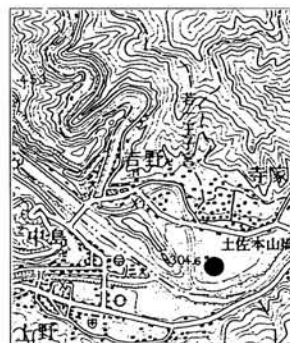
遠景



調査状況

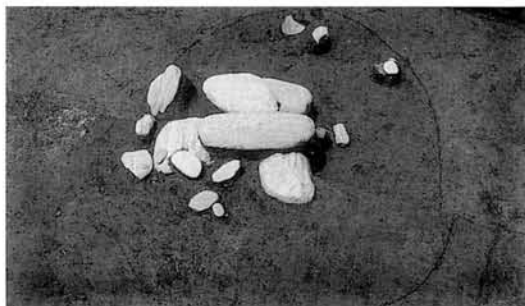
まつき 松ノ木遺跡 (91-26 MM)

1. 所在地 長岡郡本山町寺家
2. 立地 吉野川左岸の中位段丘縁部 標高 250 m
3. 時代 縄文時代～古墳時代
4. 調査期間 平成3年6月3日～7月20日
5. 調査面積 約 600 m²
6. 担当 高知県教育委員会 出原恵三



7. 調査内容 松ノ木遺跡は平成2年3月道路工事中に偶然発見され、同時に実施した緊急調査によって溝状の落ち込みから多量の縄文時代後期前葉の土器（成立期の縁帯文土器）を得ることができた遺跡である。南四国においては当該期の資料は僅少であったが、松ノ木遺跡の発見によって土器編年の空白を一挙に埋めることが可能となったばかりでなく、有文深鉢に見られるバリエーションの豊富さや組成比率に占める有文浅鉢の比重の高さなど、当該期の器種構成を考える上で注目すべき新資料を提供した。今後ここから導き出されるところの情報の数々は、当該期の社会を復元する上で重要な位置を占めることであろう。この時の調査は70 m² 足らずの狭隘な面積であり遺跡の性格を明らかにするには至らなかった。今次調査は、平成2年に多量に土器が出土した地点に隣接したところにトレンチを設定し、遺跡の広がりや遺跡全体の中における土器集中地点の位置付けなどを把握する目的で実施した。

その結果、周辺からは住居址などの生活関連の遺構を確認するには至らなかったが、土器集中地点に近接して3基の土坑を検出することができた。このうち2基は一辺1.5～1.9 m 前後、深さ12～33 cm を測る隅丸方形の土坑で、両者共に床面から浮いた状態で人頭大から拳大の河原石が多量に出土し、1基からは後期前葉の土器と共に磨製石斧が出土している。他の1基は1.7×0.93 m、深さ23 cm を測る長楕円形の土坑で遺物は全く認められなかった。これら3基の土坑は、平成2年に溝状の落ち込みから出土した土器と同時期であり、この落ち込みを囲むように配置された墓あるいは祭祀的な遺構の可能性はある。遺跡全面の調査を実施しなければ確定的なことは言えないが、これらの諸遺構は集落の中であって日常的な生活を営む空間から



集石土坑検出状況

隔れたところで営まれた祭祀などの精神生活関連の遺構群として把握することができる。当該期の一般的な土器組成の常識を逸脱した有文浅鉢などの多量廃棄は、このような背景を考えれば理解し易い。今後、生活関連遺構の検出に努め、松ノ木遺跡の構造的な把握がのぞまれる。

じんぜん じ
秦泉寺廃寺跡 (91-27 KJ)

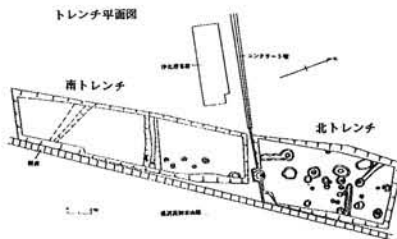
1. 所在地 高知市中秦泉寺字鷹通
2. 立地 金谷川右岸の扇状地
3. 時代 白鳳時代～平安時代
4. 調査期間 平成3年8月6日～23日
平成4年1月22日～3月4日
5. 調査面積 150 m²
6. 担当 近森泰子・山本哲也



7. 調査内容 県道高知本山線道路改良工事に伴い、計画地内に所在する秦泉寺廃寺跡について調査した。高知市の北、久万川の一支流金谷川右岸の扇状地上に立地する。この地は「土佐郷」として古代の中心地のひとつであり、秦泉寺廃寺跡を取り囲むように後期の古墳群がいくつ也存在する。以前の発掘により、白鳳期の有稜線素弁八葉蓮華文鏡瓦や川原寺系の複弁蓮華文鏡瓦などが出土しており、県下で数少ない7世紀後半～8世紀初頭の寺院である。遺構としては、白鳳時代～平安時代前半の大溝、瓦溜めや掘立柱建物跡、柵列などが確認されている。今回の発掘では、県道に添った南北のトレンチより、5棟の掘立柱建物跡、溝3条などが検出された。数時期に分かれ時代は不明確だが、主要伽藍周辺の付属施設の一部ではないかと思われる。溝の底面、埋土中や、遺構検出面の茶褐色粘礫土中より、多数の布目瓦や須恵器、土師器が出土している。瓦では、白鳳期の重弧文字瓦が出土しており、2重及び3重弧文で、裏面に段額を削り出し、3本の突帯の額面施文をするという特徴がある。他は、綾杉文や格子目文を施す平瓦である。平成3年の発掘で、灰褐色粘礫土層（遺構の柱穴の埋土）中より、火を受けて赤化した瓦が出土しており、当寺院がある時期火災にあったことが推察される。また、南トレンチの溝は、ある時期に於ける当寺院の南限を画する機能を有していたと思われる。秦泉寺廃寺跡は白鳳期に創建され、平安前半まで存続したであろうが、今回の発掘では上記以外の詳細は不明である。平成4年度にもこの続きの発掘が予定されており、新たな遺構等の発見が期待される。



南トレンチ (南より撮影)



トレンチ平面図



北トレンチ (北より)

なろ
奈路遺跡 (91-28 TN)

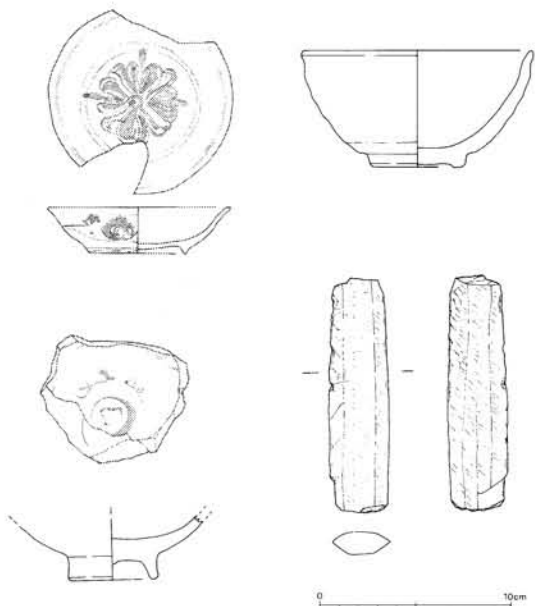
1. 所在地 十和村奈路
2. 立地 四万十川左岸の河岸段丘
3. 時代 縄文時代・中世
4. 調査期間 平成3年11月21日～12月3日
5. 調査面積 400 m²
6. 担当 松田直則



7. 調査内容 奈路遺跡は、十和村奈路に所在する縄文時代と中世の複合遺跡である。四万十川左岸に形成された河岸段丘上の標高100m前後に立地している。村営の住宅建設に伴う発掘調査で、建設予定地内を400m²の調査を実施した。遺構は、表土を除去した段階で検出でき、掘立柱建物跡・柱穴群・土坑・堅穴状遺構を検出した。これらの遺構はすべて中世と近世の時期であり縄文時代の遺構は検出されなかった。縄文時代の文化層は、中世の集落が形成された段階で削平された可能性が強い。出土遺物は、縄文時代の石剣・単孔石製品、中世では青磁・天目茶碗・備前焼小壺等がある。青磁は、見込みに印花文が施され、内外面無文の碗も出土している。さらに染付は、見込みに十字花文、体部外面に牡丹唐草文が染付られている。その他国産陶磁器の中でも天目茶碗が存在し、この地域で勢力をもった有力者の屋敷跡である可能性がある。長宗我部地検帳では、周囲に山城、屋敷の記録はないが分布調査で山城が確認されていることから、本遺跡は地検帳の時期よりさらに遡る時期を考えることができる。今回の調査では、四万十川の上流域の山間部で15世紀後半から16世紀前半において輸入陶磁器を持ち得る階層の集落を確認できたことである。今後輸入陶磁器の流通、階層性を考えていく上で、貴重な資料を得ることができた。



調査区全景



出土遺物実測図

のうさやま
能茶山窯跡 (91-31 NY)

1. 所在地 高知市鴨部字能茶山 1343-1
2. 立地 平野部に位置する独立丘陵北斜面
3. 時代 近世
4. 調査期間 平成4年2月10日～2月18日
5. 調査面積 192 m²
6. 担当 森田尚宏・松田直則

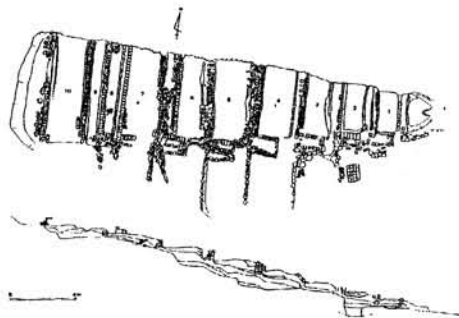


7. 調査内容 能茶山焼は、近世土佐藩の藩窯であった尾戸焼を高知市西部の能茶山に移転したことに始まる。能茶山では良質の粘土が得られたので、尾戸焼もこれを陶土として使用していたが、磁器生産を目的として文政3年（1820）に能茶山の頂部南斜面に磁器窯が築かれた。磁器窯は藩の御趣向方で管理されており、現在は御趣向窯跡として県史跡の指定を受けている。磁器窯と同じく3ヶ所の陶器窯も開かれており、そのひとつが北斜面に築かれた新助窯である。新助窯は以後、断続的に操業され現在に至っており、能茶山では今も2軒の窯元が陶業を続けている。

今回の調査はマンション建設に伴う緊急調査であったが、現地には明治以降の登窯が残されており、周辺部には多量の陶磁片、窯道具が散布していた。当初、現登窯の周辺部に近世窯跡を確認するため4ヶ所のトレンチを設定し、調査を行ったが、すべて陶土の残土、焼土の堆積であり、出土する陶片はいずれも近代以降のものであった。周辺部に窯跡存在の痕跡がないことから、現登窯の下に近世窯跡が残っている可能性が強くなり、窯体解体後に調査を行った。その結果、窯は耐火レンガを一部に使用しており、新助窯が明治期に入り西和田窯として操業された最盛期（明治40年以降）の窯体が残されているものと考えられた。この窯跡は全長約24 m、最大幅約6.4 mを測る10室の連房式登窯であり、南側に焚口と作業場が存在するものである。さらに窯体を半裁し、下部を確認したが、やはり残土と焼土の堆積であり、近世窯跡の存在は残念ながら確認されなかった。地籍図等から推定すると新助窯の規模は小さく、以後の操業による改修等により、その原形はすでに失われたものと考えられる。



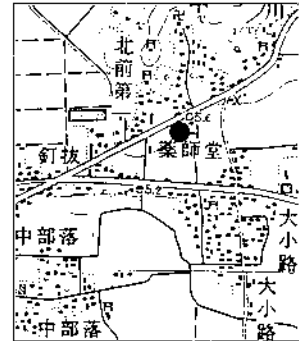
能茶山窯跡半割状態



明治期における能茶山窯業

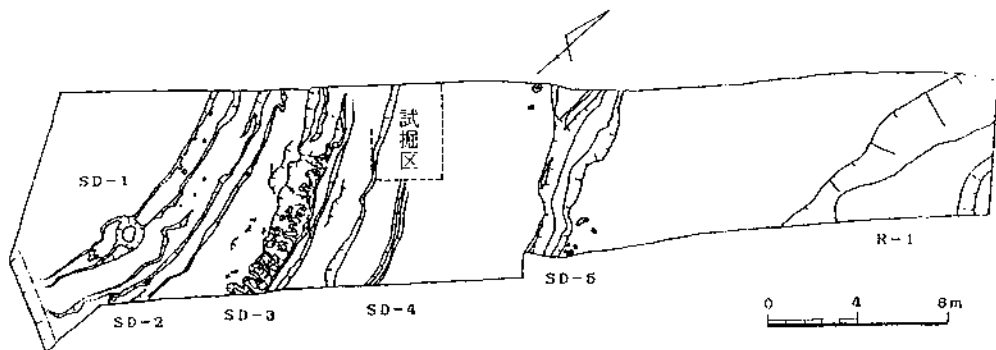
おうじ
王子遺跡 (91-32 HB)

1. 所在地 吾川郡春野町弘岡中字王子
2. 立地 標高 4.6 m 前後の低地 (河川の堆積平野)
3. 時代 縄文時代後期～中世
4. 調査期間 平成 3 年 12 月 18 日～平成 4 年 3 月 23 日
5. 調査面積 500 m²
6. 担当 江戸秀輝・吉成承三・坂本憲昭・山本哲也
7. 調査内容 本遺跡は、平成 2 年度の試掘調査によって古墳時代前期～中期の遺物包含層が検出されたことにより所在が確認された。このため平成 3 年度に本発掘調査を実施した。



発掘区の西側からは、弥生時代前期・古墳時代中期・奈良時代後半～平安時代のものと考えられる溝跡等の遺構が検出された。発掘区の東側からは、自然河川跡が検出され、自然木・木の実等を含む堆積土中から縄文土器片 (後期・晩期) が出土した。溝跡は西より SD 1～5 とし、これらは、埋土からの出土遺物等から、年代が下がるに従って西側に移行して形成されていることが明らかである。また河川跡 (R 1 とする) の所在からも、旧地形は河川端であり、河川の水位の上昇が考えられる。

SD 1 からは、土師器・土製模造鏡・銅銭 (皇宗通宝)・須恵器等が出土し、遺構中央部には、土坑 (直径 1.5 m・深さ 45 cm) が形成されている。SD 2 からは、12 世紀代に位置付けられる瓦器塊・須恵器塊等が出土した。SD 3 には、木杭もしくは矢板による打ち込みの痕跡が認められ、遺物は、8 世紀末～9 世紀代に位置付けられる須恵器 (甕・埴・坏) が出土し、須恵器甕については溝南部に集中していた。SD 4 は埋土が 2 層に区分され、上層からは須恵器 (甕等) が、下層からは土師器 (鉢・甕) が出土している。また SD 4 周辺から土師器高坏が出土している。SD 4 下層からの土師器は、5 世紀中頃～後半に位置付けられる。SD 5 からは、弥生時代前期の壺・甕・加工木片等が出土した。



遺構平面図

検出遺構のなかでSD 1～5は、北側から南西方向にかけて屈曲しており、隣接している。同一方向をとることからも、発掘区の西側に微高地が存在し、旧地形に沿って溝が形成されたことが考えられる。出土遺物のなかには、SD 1から銅銭・土製模造鏡が、また、SD 4周辺から高杯を含む土師器群が出土しており、河川端における祭祀行為の存在が確認された。

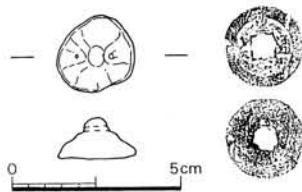
また、SD 5から弥生時代前期の土器類が出土しており、調査区北西の微高地上に集落が存在していた可能性が考えられる。



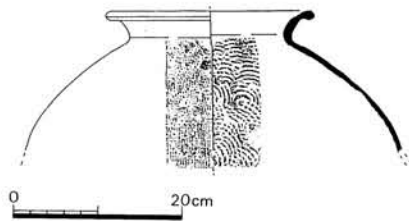
遺構 SD 1～SD 5, R 1 全景



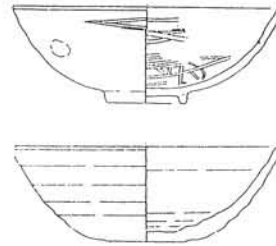
遺構 SD 1～SD 3



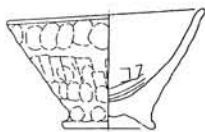
SD 1 出土遺物



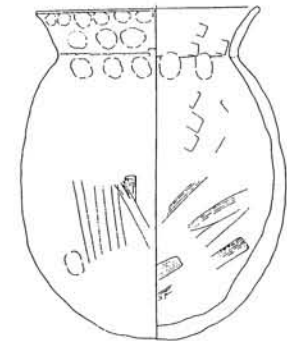
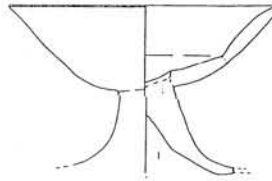
SD 3 出土遺物



SD 2 出土遺物



SD 4, SD 4 周辺出土遺物



0 15cm

出土遺物

にし しば
西ノ芝遺跡 (91-33 HB)

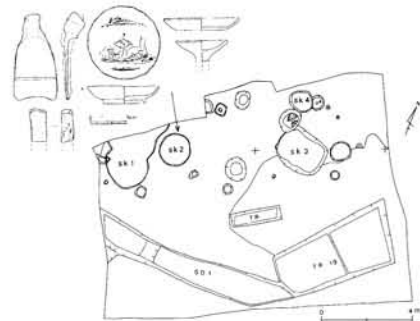
1. 所在地 春野町弘岡上字池ノ上ノ前
2. 立地 木下川左岸の標高 5.7 m 前後の低地
3. 時代 奈良～平安時代・江戸時代後半～末
4. 調査期間 平成 4 年 3 月 2 日～3 月 23 日
5. 調査面積 100 m²
6. 担当 山本哲也・江戸秀輝・坂本憲昭



7. 調査内容 国道 56 号線弘岡分岐点（主要県道春野・赤岡線との合流点）から西側へ約 320 m 至った地点が調査対象地である。この遺跡は、平成 2 年度の確認調査によって古代～中・近世の土器片等が出土したことから所在が確認された。遺跡北側の大谷川上流域には、吉良氏の居城である吉良城跡が所在し、また、遺跡東側には吉良氏の城下、弘岡市⁽¹⁾が所在するなどの周辺環境を有することから、戦国時代末期の遺構等が検出されることが期待された。調査の結果、戦国城下町に関連する遺構等は確認されなかったが、須恵器・土師器・近世陶磁器が出土し、江戸時代後半～末の土坑・溝・柱穴等が検出された。遺構等の検出状況から、国道を隔てた北側の微高地上に遺構の広がりが考えられる。検出遺構のなかで、直径 2.9 m 前後の円形土坑 (SK 2) の埋土中から、土師質土器・瓦片・近世陶磁器 (皿・壺)・砥石・鉄製鋏先が出土した。この土坑は、野溜又は水溜として利用されたものとみられ、廃棄に際して桶等を除去後、埋め戻しされたと考えられる。出土遺物は、土坑の廃棄時に一括投入されたと思われる。遺物のなかで皿は、19 世紀前半～中頃の伊万里染付皿であり、土坑の廃棄は江戸時代後半～末を前後する時期であったことがうかがわれる。ところで、この土坑からは土器類・瓦片と共に、砥石・鉄製鋏先が出土している。春野町弘岡では現在でも、便所のつぼを埋める時には、底をぬき塩をまいて、砥石片や金物を埋める、という民間信仰があり、同様な例は県下の各地で伝えられている⁽²⁾。



遺構検出状態 (西から)



遺構平面図及び SK 2 出土遺物

この土坑は、近世農村における便所神・井戸神への祭礼行為を示すものとして興味深い。

註 1 小林健太郎『戦国城下町の研究』1985 大明堂

2 桂井和男『俗信の民俗』民俗芸叢書 79 1973 岩崎美術社

ほりしり
堀ノ尻遺跡 (91-34 MH)

1. 所在地 長岡郡本山町本山堀ノ尻
2. 立地 吉野川右岸に形成された中位段丘
3. 時代 弥生時代後期～平安時代
4. 調査期間 平成3年3月28日～4月19日
5. 調査面積 250 m²
6. 担当 高知県教育委員会 出原恵三



7. 調査内容 調査地はアスファルト舗装や整地のための削平を受けており、遺物包含層は良好な状況では残っていなかった。しかし中位段丘から低位段丘面への傾斜地には黒褐色の遺物包含層が残存しており、完形に近い弥生後期末の土器数点を検出することができた。当遺跡の西方には、低位段丘に立地する弥生後期の永田遺跡や銀杏ノ木遺跡・天神前遺跡などがあり吉野川上流域にあって当該期の中心的な集落の展開が認められる。堀ノ尻遺跡の今次調査においては、明確な遺構を検出するには至らなかったが、土器の出土状況から見て、今次調査区が弥生後期集落の一部であることには違いなく、付近には竪穴住居址などの遺構が存在するものと思われる。今次調査で最も多かった遺構・遺物は、奈良・平安時代に属するものである。遺構では、一辺0.6～1mを測る隅丸方形ないしは円形を呈した柱穴群、溝、小ピットなどを検出した。柱穴群は調査面積が限られているために、並びや規模・棟数を把握することはできないが掘り方から察するに官衙的な要素を有した建物址の可能性が強い。溝は幅2～3m、深さ10～50cmで、埋土中に多量の河原石と共に須恵器・土師器が出土している。これらの須恵器の1つに図示した㊦のヘラ記号の描かれた鉢がある。当地域において古代に属する遺構が検出されたのは今次調査が初めてである。しかも遺構の性格からして注目すべきものと考えられる。文献資料によれば、延暦16年(797)吾橋・舟川の駅が置かれたことが記されており(日本後紀)、この2駅を本山町内に比定する研究者もいる。当地は高知平野と瀬戸内を結ぶ中継地点であり古代交通路を研究するうえにおいても、当遺跡は、重要な位置を占めることになるであろう。



遺物出土状況



遺構検出状況

とさこくふ
土佐国府跡 (91-8 TK)

1. 所在地 南国市比江字国庁前
2. 立地 国分川北側の水田
3. 時代 弥生時代～中世
4. 調査期間 平成3年8月28日～10月4日
5. 調査面積 300 m²
6. 担当 高知県教育委員会 松田知彦
7. 調査内容 南国市比江運動公園建設に伴い確認調査を行った。当該地域は、土佐国府跡第19次調査が行われた内、日吉地区と国分川間の国衙跡南方縁辺部と推定される地域である。水田の床土層直下より土師質土器、土師器、須恵器等が多量に出土し、性格不明の石列も検出された。また、地表下約1.2 mには弥生土器の包含層があり、集石群も検出された。国衙と直接結びつく遺構・遺物は確認できなかった。



トレンチ完掘状態

いまなり
今成遺跡 (91-16 TY)

1. 所在地 幡多郡十和村100-1他
2. 立地 四万十川の河岸段丘
3. 時代 縄文晩期、室町時代
4. 調査期間 平成3年10月14日～23日
5. 調査面積 100 m²
6. 担当 高知県教育委員会 山下英雄・近森泰子
7. 調査内容 今成遺跡は、昭和61・62年度の遺跡詳細分布調査によって見つかった遺跡である。今回の調査では、縄文時代及び中世の遺構は検出されなかったが、若干の遺物が出土した。出土した遺物は頁岩製の石鏃1点と頁岩及びチャートの剥片数点であった。これらのことから、今回の調査対象地は遺跡の周辺部もしくは既に遺構等が破壊された場所であると考えられ、同地区の今後の調査を期待したい。



遠景

こうち
高知城跡 (91-19 KC)

1. 所在地 高知市丸の内
2. 立地 大高坂山
3. 時代 江戸時代
4. 調査期間 平成3年7月29日～8月13日
5. 調査面積 66 m²
6. 担当 高知県教育委員会 山下英雄

7. 調査内容 高知城跡は、昭和34年に国から指定を受けた史跡である。今回の調査は高知県庁通信ケーブル埋設工事に伴うもので、調査はA～Fトレンチの合計6ヶ所を設定し行われた。調査の結果、Bトレンチから建物跡が、C・E・Fトレンチから暗渠の遺構が確認された。遺構はいづれも石灰岩を使用しているところに特徴がある。注目される遺物として、三葉柏の紋の入った軒丸瓦、刻印の入った丸瓦等がある。

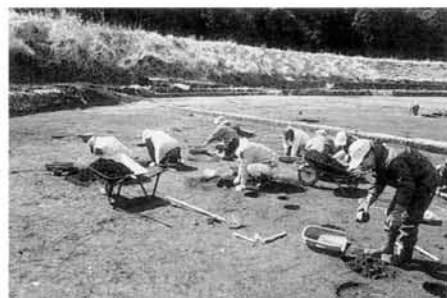


「暗渠」検出状態

びらふ
美良布遺跡 (91-35 KB)

1. 所在地 香美郡香北町美良布丙
2. 立地 物部川の河岸段丘上
3. 時代 弥生時代、中世
4. 調査期間 平成3年4月8日～4月10日
5. 調査面積 220 m²
6. 担当 曾我貴行・坂本憲昭

7. 調査内容 今次調査は平成元年～2年に実施された「健康センター」建設に伴う発掘調査の未調査部分に関する調査である。検出遺構は溝状遺構1条、ピット16基である。溝状遺構は自然の落ち込み状を呈し、弥生土器・土師質土器が出土した。ピットからは土師質土器が出土し、また等間隔に並ぶピット群が認められ、建物跡の可能性がある。他に瓦質土器・白磁・近世陶磁器等も包含層より出土している。



作業風景

須江上段遺跡 ヨコキ地区 (91-10 YSY)

1. 所在地 香美郡土佐山田町須江字ヨコキ
2. 立地 新改川段丘崖下の沖積地
3. 時代 奈良～平安時代
4. 調査期間 平成3年10月2日～10月24日
5. 調査面積 400 m²
6. 担当 中山泰弘

7. 調査内容 須江上段遺跡は山田北部県営圃場整備事業に伴う事前の試掘調査が行われており、ヨコキ地区では試掘調査の結果を基に農道建設部分の緊急調査が実施された。当初は須恵器窯跡関係の遺構、遺物の存在が考えられたが、遺構は検出されず、多量の土師器、須恵器が出土した。堆積状況からみれば、段丘上の遺物の流入と考えられ、須江上段遺跡の西端域を確認することができた。



遺物出土状態 (東より)

須江上段遺跡 松ノ本地区 (91-22 YSM)

1. 所在地 香美郡土佐山田町須江字松ノ本
2. 立地 新改川の河岸段丘
3. 時代 弥生時代～中世
4. 調査期間 平成3年11月9日～11月30日
5. 調査面積 292 m²
6. 担当 中山泰弘

7. 調査内容 須江上段遺跡の松ノ本地区について、特別高圧送電線の鉄塔建替え工事に先立つ発掘調査が行われた。調査の結果、弥生時代中期後半の竪穴状遺構1基、奈良末～平安時代の掘立柱建物跡1棟(2×5間)、他に溝、土坑、ピットが検出され、弥生土器、石包丁、土師器、須恵器等が出土した。今回は調査面積も少なかったが、広範囲かつ各時代にわたる須江上段遺跡の一端を解明することができた。



掘立柱建物跡遺構完掘状態 (西より)

ハザマダ遺跡 キシロ地区 (91-23 HK)

1. 所在地 南国市植田字キシロ68番地
2. 立地 平地
3. 時代 弥生時代～中世
4. 調査期間 平成3年11月5日～11月17日
5. 調査面積 40 m²
6. 担当 中山泰弘
7. 調査内容 山田北部県営圃場整備事業に伴い四国電力株式会社が所有する特別高圧送電線（新改線 No. 16号）の建替え工事のため鉄塔建設地に所在するハザマダ遺跡への工事による遺跡への影響があると考えられ、事前に試掘調査を実施した。調査は2 m × 10 m のトレンチを二箇所設定した。調査の結果、耕作土より須恵器、土師器、土師質土器の細片が出土したのみで、遺構は確認されなかった。



試掘トレンチ

V 試掘調査概要

(91-11 NS)

建設省受託・中村宿毛道路に係る埋蔵文化財確認調査

(間～西ノ谷区間、松ガハナ城跡・江ノ古城跡・間遺跡)

1. 所在地 中村市江ノ村間～西ノ谷
2. 調査期間 平成3年9月2日～平成4年2月19日
3. 調査面積 676㎡
4. 担当 曾我貫行

○西ノ谷区間

1. 所在地 中村市江ノ村西ノ谷
2. 立地 沖積地
3. 時代 弥生時代～古墳時代
4. 調査内容 設定した9箇所の試掘坑のうち2箇所から遺構・遺物が確認されたため、新たに西ノ谷遺跡と命名した。弥生時代後期及び古墳時代の遺物包含層と、集石遺構・杭跡を検出した。集石遺構と同層からは打製石庖丁及び弥生前期土器（壺・甕）300点余りが出上っており集落遺跡の可能性が高い。平成4年度に本格調査実施の予定。

○ハナノシロ城跡

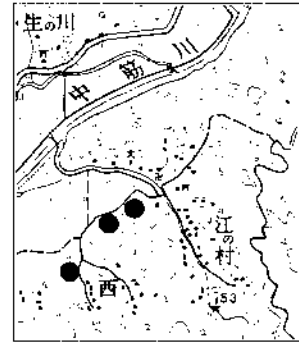
1. 所在地 中村市江ノ村西ノ谷
2. 立地 丘陵上
3. 時代 中世
4. 調査内容 3箇所の郭に戦国期の遺構が認められた。検出遺構は土坑1基、柱穴73基であり、遺構出土の土師質土器・青磁から、15～16世紀に機能した城郭であることが判明した。平成4年度に本格調査の予定。

○江ノ古城跡

1. 所在地 中村市江ノ村
2. 立地 丘陵先端部
3. 時代 中世～近世
4. 調査内容 3箇所の郭に戦国期～近世の遺構が認められた。検出遺構は土坑2基、柱穴13基である。柱穴群が城郭に伴う遺構、土坑は寛永通宝・近世陶磁器等の出土から、城郭廃絶後の遺構と考えられる。他に青磁・炭化木等が出土した。平成4年度に本格調査の予定。

○間区間

1. 所在地 中村市江ノ村間
2. 立地 沖積地
3. 調査内容 設定した13箇所の試掘坑から遺構・遺物は確認されなかった。当該調査区間には間遺跡（中世、散布地）の存在が知られており、遺跡範囲内にも2箇所の試掘坑を設定して調査を行ったが、今次調査では遺跡の存在は認められなかった。



1/50,000

図中左から西ノ谷遺跡、ハナノシロ、江ノ古城跡

うらど
浦戸城跡 (91-18 UC)

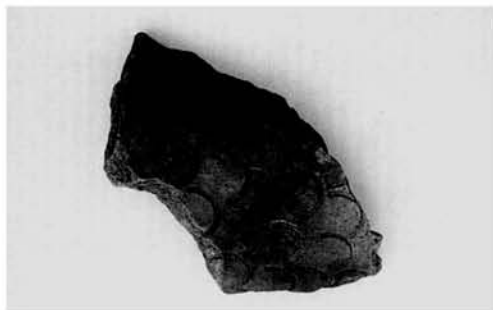
1. 所在地 高知市浦戸字城山
2. 立地 浦戸湾口へ突出する丘陵先端部
3. 時代 戦国時代
4. 調査期間 平成3年11月22日～12月20日
5. 調査面積 240 m²
6. 担当 森田尚宏



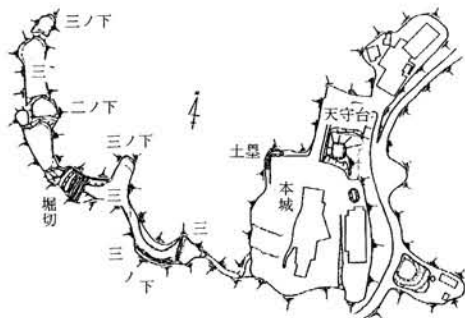
7. 調査内容 浦戸城跡は、長宗我部氏最後の居城として著名な城跡である。長宗我部元親が1591年に大高坂城（現高知城）へ移転した後、関ヶ原の合戦の結果、山内氏が入国し、1603年に浦戸城から再び築城なった高知城へ移転するまでの約10年間の中心の時期である。しかし、長宗我部氏が浦戸城に入る以前には本山氏の支配下の城としてその名をみることができ、さらに築城時期は南北朝の頃までさかのぼると考えられており、中世城郭として古くから存在していたとみられる。

浦戸城跡の構造については古絵図が残されており、東部の山頂部に五十三間四方の「本城」と五間四方の天守台、井戸が存在する。本城より西、東、北、の三方へ延びる尾根上には、二、三、四などと記された曲輪が連続しており、西部には堀切もみうけられる。本城には石垣が存在していたようであり、天守台の存在からも土佐における近世城郭の初見とされている。現況は道路、国民宿舎等の建設により、本城は天守台を残すのみであり、東及び北の曲輪もほとんど削平されている。西尾根上の曲輪は一部削平されているが、堀切も含め原形を保っている。

調査は西部の各曲輪を対象として行われ、トレンチ調査により遺構、遺物の確認に努めた。しかしながら各曲輪ともに表土下は地山または岩盤であり、若干の染付、土師質土器を出土したのみである。遺構はまったく検出されず、山内氏の高知城移転に際して、遺構、遺物は除去されたものではないかと考えられる。また、調査区外ではあるが、本城の西斜面にみられる黒褐色土中からは巴文軒丸瓦、丸瓦、平瓦とともに鯿の破片が出土しており、天守閣の棟上を飾っていたものと考えられ、天守閣の存在を遺物により確認することができた。



鯿片



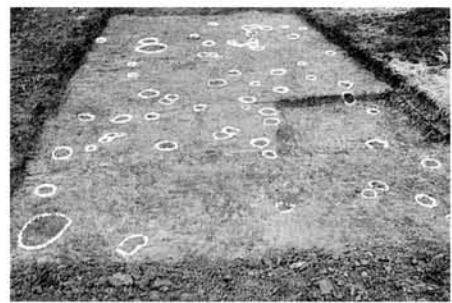
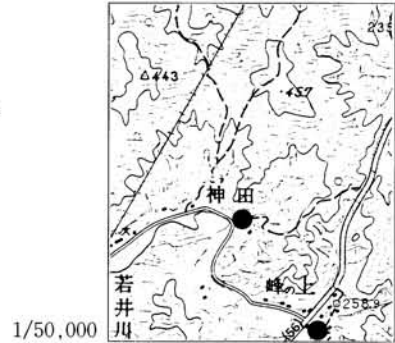
浦戸湾跡全体図

くぼかわ

窪川町南部遺跡群 (91-7 KK)

1. 所在地 高岡郡窪川町中神の川、若井川、峰の上
2. 立地 神の川、若井川の河岸段丘
3. 時代 縄文時代～中世
4. 調査期間 平成3年11月13日～12月5日
5. 調査面積 400 m²
6. 担当 近森泰子

7. 調査内容 今回の試掘は、窪川南部地区県営圃場整備事業に伴う事前の調査である。大半は、耕地整理による削平のため遺構等は無くなっている。しかし峰の上地区では、国道56号線添いの丘陵上に、柱穴群が検出され、細蓮弁文青磁片2(16世紀)が出土している。土地の字名は『長宗我部地検帳』にも見える「ムカイヤシキ」である。この事から、当時の農家の掘立柱建物跡と考えられる。



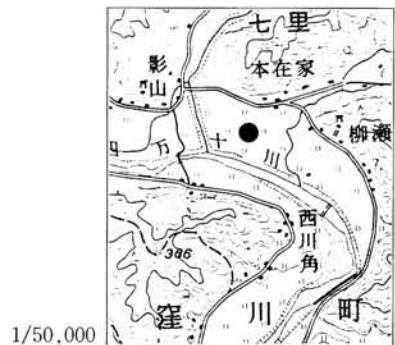
峰の上 TR 10 遺構検出状況

くぼかわ

窪川町北部遺跡 (91-24 KN)

1. 所在地 高岡郡窪川町沖代
2. 立地 四万十川の河岸段丘
3. 時代 弥生時代、中世～近世
4. 調査期間 平成3年7月15日～8月9日
5. 調査面積 500 m²
6. 担当 坂本憲昭

7. 調査内容 沖代遺跡の試掘調査、窪川北部地区の県営圃場整備事業に先だつものとして、調査地区に61ヶ所のグリッドを設定して行われた。TR 8では、柵列が検出され、TR 23では、中世の御堂と考えられる遺構と、近世の民家と考えられる総柱の掘立柱建物が1棟検出された。TR 8、TR 23ともに遺構の広がり確認されず、今回の調査によって調査を完了した。



遺構完掘状態

ねくび 根の首遺跡 (91-15 NK)

1. 所在地 中村市下田串江字根の首
2. 立地 四万十川河口標高約 35 m の段丘
3. 時代 縄文時代
4. 調査期間 平成 3 年 10 月 14 日～30 日
5. 調査面積 400 m²
6. 担当 坂本憲昭・松田知彦

7. 調査内容 西南大規模公園予定地内に 17 本の試掘トレンチを設定し試掘調査を実施した。当地域では、以前に縄文時代の石鏃等が表採されており今回の調査が期待されたが、遺構については皆無であった。遺物については、石錘及び石器剥片が出土したが時代は特定できなかった。しかし、同公園整備計画予定地には、縄文時代の遺跡として周知されている地域が多く含まれており、本計画の動向が注目される。



調査風景

ひものうち 桧物ヶ内遺跡 (91-20 HU)

1. 所在地 南国市大桶大田黒 1～3
2. 立地 沖積平野
3. 時代 古墳～平安時代
4. 調査期間 平成 3 年 4 月 22 日～5 月 17 日
5. 調査面積 156 m²
6. 担当 高知県教育委員会 松田知彦・山下英雄

7. 調査内容 今回の調査によって、古墳～平安時代の遺構は検出されなかった。遺物は各トレンチより若干ではあるが出土している。出土遺物は、弥生土器片、須恵器片、土師質土器片であるが、これらはすべて第 2 層よりの出土であった。第 2 層は田甫を作るとき作られた盤であり、この層よりの出土遺物はすべて流れ込みであると思われる。この地域では、今後とも遺構及び多量の遺物の検出はないと考えられる。



遠景

さかわ とが の
佐川町斗賀野遺跡群 (91-25 ST)

1. 所在地 高岡郡佐川町斗賀野
2. 立地 標高約 92 m を測る沖積平野
3. 時代 弥生時代～室町時代（平安時代が中心）
4. 調査期間 平成 3 年 12 月 9 日～12 月 24 日
5. 調査面積 332 m²
6. 担当 廣田佳久

7. 調査内容 今回の調査は、高知県が計画している圃場整備事業に伴う事前の確認調査である。平成 2・3 年度の 2 ヶ年にわたり実施した試掘調査（2×2 m の試掘トレンチ 140 個を調査）の結果、周知の 1 遺跡（二の部城跡の堀跡の確認）に加えて新たに 4 遺跡（二の部遺跡、岩井口遺跡、美都岐遺跡、テラ川遺跡）を確認することができた。特に美都岐遺跡は官衙関連の遺跡が検出されており注目される。

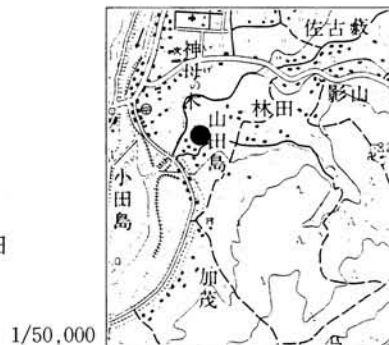


トガノ遠景

シタノヂ遺跡 (91-29 YG)

1. 所在地 香美郡香土佐山田町シタノヂ 423-1 他
2. 立地 物部川河岸段丘
3. 時代 縄文時代～平安時代
4. 調査期間 平成 3 年 12 月 10 日～平成 4 年 1 月 27 日
5. 調査面積 184 m²
6. 担当 吉成承三・江戸秀輝・中山泰弘

7. 調査内容 シタノヂ遺跡は、物部川左岸の標高約 55 m の河岸段丘上に立地する。調査対象地にトレンチ（2×2 m）を計 47 ヶ所設定し調査を行った。遺構が確認できたトレンチは 18 ヶ所で、土坑、溝、柱穴を検出した。出土遺物は、縄文晩期の土器片をはじめ、弥生土器、土師器、須恵器等約 600 点が出土した。なお、遺構・遺物は、遺跡の西側に集中しており、西方への遺跡の広がりが考えられる。

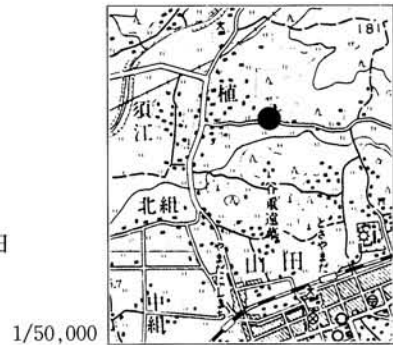


遺物出土状況

とさやまだ
土佐山田北部遺跡群 (91-30 YH)

1. 所在地 香美郡土佐山田町須恵, 植
2. 立地 丘陵, 平地
3. 時代 弥生時代～近世
4. 調査期間 平成3年12月16日～平成4年2月28日
5. 調査面積 244 m²
6. 担当 中山泰弘

7. 調査内容 山田北部県営圃場整備事業の須江工区, 植工区について, 平成4年度以降の事業施工予定地の試掘調査を実施した結果, 須江地区では柱穴の遺構が確認され, 出土遺物は須恵器, 土師器, 土師質土器, 近世陶磁器の細片が出土した。一方, 植地区の試掘調査の結果, 当該試掘調査地域の遺跡群は, 土生川の氾濫等により, 遺物が流れこんだものであることが確認された。なお, 一部の地区では, 溝状遺構と土坑状遺構が確認され, 土坑内より, 土師質土器 (坏), 陶器 (花瓶) が出土した。



グリッド-32 遺物出土状態 (東より)

高知県埋蔵文化財センター年報 1

1991年度

発行日 平成4年9月30日

編集・発行 財 高知県文化財団
埋蔵文化財センター

印刷 西村勝写堂